

授 業 科 目 名		解 剖 生 理 学	担 当 教 員	小 林 圭 一
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	人体の組織	組織とその分類		目標 1 1 生命とは-A 細胞-a.細胞の構造 b.細胞内小器官の構造
2	運動器	骨総論、関節など		1-F 人体の作り-a.組織 b.器官 c.系 6 生活行動を支える運動系-B.骨格 6-E.関節運動 6-C.筋の収縮 6-D.骨格筋
3		骨各論(全身の骨)		
4		骨各論、筋総論		
5		全身の筋		
6		全身の筋		3 流通路としての循環系-A 心臓
7	脈管系	心臓、主な動脈		血管系-a.心臓の構造 b.心臓の機能 c.血管の構造 d.動脈系と静脈系 3-B リンパ系-a.リンパの流れ 2 生体の防御機構-C 生体防御系の発生・発達-a.胸腺・脾臓 3-C 循環器系の発達・老化-a.胎児の血液循環 7 呼吸の機構-A 換気-a.鼻腔の構造と機能 b.咽頭・喉頭の構造 c.気管・肺の構造 8 栄養摂取の機構-B 咀嚼-b.口腔の構造と機能 8-C 嚥下-b.咽頭の構造と機能 c.食道の構造と機能 8-D.消化と吸収 9 排泄の機構-D 排便-a.直腸・肛門の構造と神経支配 1 生命とは-E 人体を覆う皮膚と膜-b.漿膜・粘膜・滑膜 9 排泄の機構-A 尿の生成-a.腎臓の構造 9-C 排尿-a.膀胱の構造と神経支配 b.尿道の構造と機能 10 性と生殖に関する機構-A.女性の生殖系 B.男性の生殖系 5 液性調節-C.内分泌器官の構造と機能 4 神経性調節と刺激の需要-A.神経系の仕組み 4-B.神経組織 4-C.中枢神経系 4-D.末梢神経系 1 生命とは-E 人体を覆う皮膚と膜-a.皮膚の構造と機能 2 生体の防御機構-A 非特異的生体防御機構-a.生体表面のバリアー 4 神経性調節と刺激の受容-H.皮膚感覚 4-E.視覚 4-F.聴覚と平衡覚 4-G 味覚と嗅覚-a.嗅覚と嗅覚受容器 b.味覚と味蕾
8		主な動静脈		
9	予備			
10	呼吸器系	鼻～気管と気管支		
11		肺		
12	消化器系	口～胃		
13		小腸～大腸		
14		肝臓・胆のう・膵臓		
15	まとめ	前期総まとめ		
16	泌尿器系	腎臓の構造		
17		尿生成の仕組み		
18	生殖器系	男性生殖器		
19		女性生殖器		
20	内分泌系	内分泌器官の位置と形状		
21	神経系	神経総論、脊髄		
22		脳		
23		脳神経		
24		脊髄神経、自律神経		
25	感覚器系	皮膚・視覚器		
26		平衡聴覚器など		
27	予備			
28	まとめ	後期総まとめ * 後期途中 2 回分(半日)解剖見学実習を行う予定		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名	解 剖 生 理 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命とは	細胞 組織・器官 体液	目標 1 - 1 生命とは A.細胞 a.細胞の構造 b.細胞内小器官の構造 c.遺伝情報 F.人体のつくり a.組織 b.器官 c.系 C.内部環境の恒常性 a.体液 b.体液の電解質 c.体液の酸塩基平衡
2 3	血液	血液の成分と機能/赤血球・白血球・血小板/血漿 血液凝固 血液型	目標 1 - 2.生体の防御機構 D.血液の成分と機能 a.血液のはたらき b.血液の物理化学的特性 c.血液の成分 d.造血 E.止血機構 a.凝固と線溶 b.凝固時間と出血時間 c.血管内凝固 F.血液型 a.h.A・B・AB・O型およびRh型
4 5	循環	心臓血管系 血圧・血流・脈拍/循環の調節 リンパ循環 胎児循環	目標 1 - 3.流通路としての循環系 A.心臓血管系 a.心臓の構造 b.心臓の機能 c.血管の構造 d.動脈系と静脈系 e.脈拍 f.血圧 B.リンパ系 a.リンパの流れ C.循環器系の発達・老化 a.胎児の血液循環 b.血管の老化
6 7	呼吸	呼吸器系/呼吸器系の機能/肺機能の測定 ガス交換 ガスの運搬 呼吸の調整	目標 1 - 7.呼吸の機構 A.換気 a.鼻腔の構造と機能 b.咽頭・咽頭の構造 c.器官・肺の構造 d.呼吸運動 e.肺機能の測定 f.声帯と発声 B.ガス交換 a.外呼吸と内呼吸 b.ガス分圧 C.ガスの運搬 a.酸素の運搬 b.二酸化炭素の運搬 D.呼吸調節 a.呼吸中枢 b.呼吸に影響を与える因子
8 9 10	1st Midterm Exam 生体防御機構 と免疫	第 1 ~ 7 回 生体の防御機構と免疫/生体の防御機構に働く器官と因子 免疫反応の分類 炎症とアレルギー	目標 1 - 2.生体の防御機構 A.非特異的生体防御機構 a.生体表面のバリアー b.細胞と化学物質 B.特異的生体防御反応(免疫系) a.免疫系の細胞 b.抗原 c.液性免疫 d.細胞性免疫 C.生体防御系の発生・発達 a.胸腺・脾臓 b.免疫グロブリン c.アレルギー
11 12 13	消化と吸収, 栄養と 代謝	食物摂取と消化器系 消化と吸収 食欲, 栄養と代謝 / エネルギー代謝 生体内の物質代謝	目標 1 - 8.栄養摂取の機構 A.食欲 a.血糖と食欲の中枢 B.咀嚼 a.咀嚼の過程 b.口腔の構造と機能 C.嚥下 a.嚥下の過程 b.咽頭の構造と機能 c.食道の構造と機能 D.消化と吸収 a.胃の構造と機能 b.十二指腸の構造と機能 c.膵臓の構造と機能 d.肝臓と胆嚢の構造と機能 e.空調・回腸の構造と機能 f.結腸の構造と機能 E.代謝 a.栄養所要量 b.基礎代謝 c.炭水化物の代謝 d.脂肪の代謝 e.蛋白の代謝 f.核酸の代謝

回	講義題目	教科	内容	国家試験出題基準
14 15	尿の生成と排尿	腎臓と尿の生成/腎臓の構造と機能/腎機能の測定 尿生成の調節 蓄尿と排尿	腎臓と尿の生成/腎臓の構造と機能/腎機能の測定 尿生成の調節 蓄尿と排尿	目標 1 - 9.排泄の機構 A.尿の生成 a.腎臓の構造 b.濾過 c.再吸収 d.分泌 B.尿量の調節 C.排尿 a.膀胱の構造と神経支配 b.尿道の構造と機能 D.排便 a.直腸・肛門の構造と神経支配 目標 1 - 4.神経性調節と刺激の受容 A.神経系のしくみ a.構造に基づく分類 b.機能に基づく分類 B.神経組織 a.神経細胞と情報伝達 b.神経膠細胞 C.中枢神経系 a.大脳の機能と構造 b.間脳の構造と機能 c.脳幹の構造と機能 d.小脳の構造と機能 e.脊髄の構造と機能 f.中枢神経系を保護する組織 g.伝達路 D.末梢神経系 a.脳神経 b.脊髄神経と神経叢 c.体性神経系 d.自律神経系 E.視覚 a.視覚器の構造 b.視覚の伝導 c.眼球運動 d.眼球に関する反射 F.聴覚と平衡覚 a.平衡聴覚器の構造 b.平衡覚 c.聴覚 G.嗅覚と味覚 a.嗅覚と嗅覚受容器 b.味覚と味蕾 c.内臓感覚
16 17 18	神経	神経系とは 中枢神経系 末梢神経系	神経系とは 中枢神経系 末梢神経系	目標 1-1. E.人体をおおう皮膚と膜 a.皮膚の構造と機能 b.漿膜・粘膜・滑膜 目標 1-4. H.皮膚感覚 c.皮膚の感覚受容器 d.皮膚感覚の種類 目標 1-1. C.内部環境の恒常性 d.体温 e.ホメオスタシス(恒常性) D.生体のリズム a.サーカチアンリズム d.睡眠と覚醒 目標 1-5.生活行動を支える運動系 A.姿勢 a.体位と構え b.体位と神経・脳の発達 B.骨格 a.骨の構造と機能 C.筋の収縮 a.筋の構造 b.収縮の機能 D.骨格筋 a.呼吸筋の役割 b.骨盤底筋と役割 E.関節運動 a.関節運動とはたらき F.運動のメカニズム a.随意運動 b.不随意運動
19 20 21	感覚 皮膚と膜	感覚の一般的性質/視覚 聴覚/平衡感覚 嗅覚と味覚 体性感覚/内臓感覚/痛覚 皮膚の機能/皮膚の腺 人体の膜の機能	感覚の一般的性質/視覚 聴覚/平衡感覚 嗅覚と味覚 体性感覚/内臓感覚/痛覚 皮膚の機能/皮膚の腺 人体の膜の機能	目標 1-1. E.人体をおおう皮膚と膜 a.皮膚の構造と機能 b.漿膜・粘膜・滑膜 目標 1-4. H.皮膚感覚 c.皮膚の感覚受容器 d.皮膚感覚の種類 目標 1-1. C.内部環境の恒常性 d.体温 e.ホメオスタシス(恒常性) D.生体のリズム a.サーカチアンリズム d.睡眠と覚醒 目標 1-5.生活行動を支える運動系 A.姿勢 a.体位と構え b.体位と神経・脳の発達 B.骨格 a.骨の構造と機能 C.筋の収縮 a.筋の構造 b.収縮の機能 D.骨格筋 a.呼吸筋の役割 b.骨盤底筋と役割 E.関節運動 a.関節運動とはたらき F.運動のメカニズム a.随意運動 b.不随意運動
22	体温の調節	体温/体熱の産生と放散/体温の調節/発熱、 ホメオスタシス	体温/体熱の産生と放散/体温の調節/発熱、 ホメオスタシス	目標 1-1. E.人体をおおう皮膚と膜 a.皮膚の構造と機能 b.漿膜・粘膜・滑膜 目標 1-4. H.皮膚感覚 c.皮膚の感覚受容器 d.皮膚感覚の種類 目標 1-1. C.内部環境の恒常性 d.体温 e.ホメオスタシス(恒常性) D.生体のリズム a.サーカチアンリズム d.睡眠と覚醒 目標 1-5.生活行動を支える運動系 A.姿勢 a.体位と構え b.体位と神経・脳の発達 B.骨格 a.骨の構造と機能 C.筋の収縮 a.筋の構造 b.収縮の機能 D.骨格筋 a.呼吸筋の役割 b.骨盤底筋と役割 E.関節運動 a.関節運動とはたらき F.運動のメカニズム a.随意運動 b.不随意運動
23 24 25	2nd Midterm Exam 運動	生体リズム 第 16～22 回 運動器系とは 骨・関節・筋の機能/筋収縮のしくみ 運動の調節	生体リズム 第 16～22 回 運動器系とは 骨・関節・筋の機能/筋収縮のしくみ 運動の調節	目標 1-1. C.内部環境の恒常性 d.体温 e.ホメオスタシス(恒常性) D.生体のリズム a.サーカチアンリズム d.睡眠と覚醒 目標 1-5.生活行動を支える運動系 A.姿勢 a.体位と構え b.体位と神経・脳の発達 B.骨格 a.骨の構造と機能 C.筋の収縮 a.筋の構造 b.収縮の機能 D.骨格筋 a.呼吸筋の役割 b.骨盤底筋と役割 E.関節運動 a.関節運動とはたらき F.運動のメカニズム a.随意運動 b.不随意運動
26 27 28	内分泌	ホルモンの一般的特徴 内分泌器官の機能	ホルモンの一般的特徴 内分泌器官の機能	目標 1-5.液性調節(内分泌系) A.ホルモンの作用機序 a.ホルモンの化学的性質 b.ホルモンの作用機序 B.ホルモン分泌の調節 a.フィードバック機構 C.内分泌器官の構造と機能 a.視床下部ホルモン b.下垂体の構造とホルモン c.甲状腺の構造とホルモン d.上皮小体の構造とホルモン e.膵島の構造とホルモン f.副腎皮質の構造とホルモン g.副腎髄質の構造とホルモン h.消化管ホルモン i.腎臓のホルモン j.性ホルモン 目標 1-10.性と生殖に関する機構 A.女性の生殖系 a.女性生殖器官の構造卵の成熟 b.性周期 c.妊娠・出産 B.男性の生殖系 a.男性生殖器官の構造 b.精子の形成 a.個体の成長・更年期・老化の生理
29 30	生殖、成長・老化	生殖とは/受精 妊娠・分娩、 個体の成長/更年期/老化 ～ 総まとめ ～	生殖とは/受精 妊娠・分娩、 個体の成長/更年期/老化 ～ 総まとめ ～	目標 1-5.液性調節(内分泌系) A.ホルモンの作用機序 a.ホルモンの化学的性質 b.ホルモンの作用機序 B.ホルモン分泌の調節 a.フィードバック機構 C.内分泌器官の構造と機能 a.視床下部ホルモン b.下垂体の構造とホルモン c.甲状腺の構造とホルモン d.上皮小体の構造とホルモン e.膵島の構造とホルモン f.副腎皮質の構造とホルモン g.副腎髄質の構造とホルモン h.消化管ホルモン i.腎臓のホルモン j.性ホルモン 目標 1-10.性と生殖に関する機構 A.女性の生殖系 a.女性生殖器官の構造卵の成熟 b.性周期 c.妊娠・出産 B.男性の生殖系 a.男性生殖器官の構造 b.精子の形成 a.個体の成長・更年期・老化の生理
	テキスト			
	参考書			

授 業 科 目 名		体 の 発 生 と 発 達	担 当 教 員	澤 田 只 夫
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命の起源	生命誕生の準備(化学進化) 原始生命の誕生 生命を支える分子		目標 1-1.生命とは 生体物質 水 タンパク質 炭水化物(糖質) 脂質 核酸 無機物 A.細胞 a , b. c. ウイルス 原核細胞と真核細胞真核細胞の一般構造 細胞膜(原形質膜、形質膜、生体膜)核 小胞体 ゴルジ装置(体)リソソーム(ライソソーム、水解小体) ミトコンドリア 色素体 細胞骨格 中心体と線毛組織 上皮組織 結合組織 筋肉組織 神経組織 器官とその機能
2	生命の単位	細胞の構造と機能		
3		生体の構造と機能		
4				
5	生命現象とエネルギー	酵素 共通のエネルギー源 光合成 呼吸		B.エネルギー代謝 c. 酵素 光化学系 カルビン回路 嫌気呼吸 好気呼吸 クエン酸回路 電子伝達系
6	細胞の増殖	細胞周期 ヒトの配偶子形成 メンデルの法則 遺伝子の本体 DNAの働き		間期 細胞周期の調節 分裂期 体細胞分裂 減数分裂 精子形成 卵子形成 A. c. 遺伝情報 優性の法則・分離の法則 独立の法則 遺伝子解明の実験 DNAの構造 DNAの複製 RNAの合成(転写) 遺伝暗号
7	生命をつなぐ遺伝情報	ヒトの遺伝 遺伝と環境 受精		タンパク質合成 染色体の分類 性別と遺伝子量 遺伝の様式 突然変異と先天硫黄(遺伝病)
8				双生児と遺伝への利用 遺伝と環境の問題
9	Midterm Exam			目標 1 - 10.性と生殖に関する機構 B.精子の放線冠への進入(受精能獲得)精子の透明帯への付着と進入 多精子受精の防御精子と卵の融合と接合子形成 A.割球 胞胚形成から胚葉形成卵割と中期胞胚変換 原腸(囊)胚形成 細胞運動とフィブロネクチン神経胚形成 中胚葉と内胚葉の分化 器官形成 胚誘導と形成体 形態形成と細胞死
10	発生・分化	発生過程		
11				
12	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ		
13		性の分化とホルモン		

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
14	ヒトへの進化	進化とその要因 進化の事実と証拠 ヒトの進化 ヒトと地球環境	卵割と初期胚 胚盤胞(胞胚)の形成と着床 内細胞塊の分化と胚葉の形成 胚葉の分化 b. c.子宮粘(内)膜と胎盤 胎児の成長と発育 生殖腺の分化 性決定遺伝子 内部生殖器官・外部生殖器官の分化 脳の性分化 突然変異と淘汰 分類学・形態学的な研究 比較発生学的な証拠 比較生理学、生化学的な研究 アウストラロピテクス属(猿人) ホモ属 ヒトの特徴 エコシステム 人間の生活と環境 地球温暖化
15	生物と地球環境	環境汚染化学物質 環境保全  ~ 総まとめ ~	
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名	物理学と看護人間工学	担 当 教 員	武 田 淳 史
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	オリエンテーション 動き易さ使いやすさ	講義内容の全体像について説明 看護と理学に役立つ看護人間工学と医用工学について 身体にとって良い動作、生活姿勢について	基本的看護技術 -目標 2-
2	人工臓器	人工臓器の現状と将来について その際の看護師の役割について	2 基本的日常生活援助技術
3	看護人間工学	看護人間工学とは。	A 環境を整える技術 a 環境の調整
4	医療器械	運動支援システム、通信システムについて	温度、湿度
5	介助、看護動作	理学、看護に役立つ介護動作について	D 身体の清潔の援助技術 c 褥瘡の予防処置
6	外科の看護理学	手術室での看護師の役割、その後の理学療法士の仕事	3 診療に伴う技術 A 診察・検査
7	温熱療法	熱伝導、対流理論とその応用。温熱療法とは	c 検査時の看護 心電図
8	エネルギー	人間のエネルギー代謝	身体の構造と機能
9	心電図	心臓の刺激伝導系、活動電位と原理	3 流通路としての循環系 A 心臓血管系
10	聴診器	看護の臨床の現場で必要なこと 聴覚と聴診器について 臨床に役立つ聴診法	a 心臓の構造 b 心臓の機能 f 血圧
11	医療事故対策(1)	看護理学に役立つ医療機器の基本構成と取扱について	6 生活行動を支える運動系
12	医療事故対策(2)	看護理学に役立つ機器の安全確保について	A 姿勢 a 体位と構え
13	実習 A 室内環境	室内の温度・湿度ムラ調査 理想的室内環境とは	E 関節運動 a 関節の構造
14	実習 B バリアフリー	ドアの開閉と取っ手の高さの調査 バリアフリーの概念	8 栄養摂取の構造 E 代謝
15	実習 C 臨床応用	皮膚温度、インピーダンス測定 褥瘡予防の最前線	b 基礎代謝
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		栄 養 学	担 当 教 員	後 藤 香 織	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	栄養学とは	地球上で必要なエネルギーとは？代謝とは？			
2	代謝と栄養	糖代謝			
3	"	脂質代謝			
4	"	アミノ酸代謝			
5	"	タンパク質合成			
6	"	セントラルドグマ			
7	病気と栄養	電解質代謝、ビタミン、ミネラル			
8	"	栄養所要量の計算、消化器疾患( )			
9	"	消化器疾患( )			
10	"	消化器疾患( )			
11	"	腎疾患( )			
12	"	腎疾患( )			
13	"	内分泌、代謝疾患( )			
14	"	内分泌、代謝疾患( )、循環器疾患			
15	まとめ	血液、感染症、アレルギー、骨、関節疾患 演習 他			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		生 化 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	生体分子と細胞	生化学の項目を別々に覚えるのではなく、一人の患者さんを診て看護するときのように、他の科目とお互いに関連付けて学ぶよう心がけよう。		目標 1-1.生命とは A.細胞 b.細胞内小器官	
2	タンパク質の性質	生体の成り立ち/個体、器官、組織、細胞/細胞内小器官の機能/細胞分画法/生体を構成する物質/代謝 生体で起きている化学反応		B.エネルギー代謝 a.代謝とは タンパク質 アミノ酸の種類 タンパク質の変性 血漿タンパク質	
3	酵素の性質と働き	タンパク質の分類/タンパク質を構成しているアミノ酸はL - a - アミノ酸である/タンパク質を構成しているアミノ酸の種類/アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している/タンパク質の高次構造/タンパク質は変性し、機能を失う/血漿タンパク質		c.酵素 酵素の特性 逸脱酵素 アイソエンザイム	
4	生体内における糖質の代謝	酵素とは/酵素の特性/酵素の種類/アイソエンザイム/血清酵素の診断への利用		目標 1 - 8.栄養摂取の機構 E.代謝 c.糖質 エネルギー源としての糖 グルコースとグリコーゲン	
5	生体内における脂質の代謝	糖とは何か/糖の分類/糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である/グルコースとグリコーゲンの合成/血糖の調節/糖尿病		血糖の調節 糖尿病 脂質の性質	
6	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脂質の種類と化学的性質/脂質の代謝/リポタンパク質と脂質代謝異常		d.脂質の代謝 リポタンパク質と脂質代謝異常	
7	生体内における核酸の役割	脱アミノ反応/脱炭酸反応/尿素回路/糖新生/エネルギー代謝/分枝鎖アミノ酸の代謝/含硫アミノ酸の代謝/オキシアミノ酸の代謝/芳香族アミノ酸の代謝/アミノ酸の先天性代謝異常症/主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動		e.アミノ酸の代謝 アミノ酸の先天性代謝異常 主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動	
8	Midterm Exam	核酸の所在/2種類の核酸と構造核酸はコピーされる/タンパク質を作るための核酸/いらなくなった核酸の処分/核酸の仲間/遺伝病の犯人は？/遺伝子操作のもたらす世界		f.核酸の代謝核酸の構造 核酸の複製 タンパク質合成のしくみ	
9	体液	水/体液の電解質/酸・塩基平衡		目標 1-1.生命とは C.内部環境の恒常性 b.体液の電解質酸・塩基平衡	
10	ホルモン	ホルモンのあらし/ホルモンの種類/ホルモン作用の発現様式/ホルモン分泌のフィードバック調節/各種のホルモン/ホルモン関連物質(メラトニン、レニン、プロスタグランジン)/内分泌疾患		目標 1-5.液性調節(内分泌系) a.ホルモンの種類 A.ホルモンの作用機構 B.ホルモン分泌の調節 a.フィードバック調節 C.内分泌器官の構造と機能 内分泌疾患	



回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
11	ビタミン	水溶性ビタミン/脂溶性ビタミン	水溶性ビタミン 脂溶性ビタミン
12	内部環境の恒常性 ホメオスタシス	精神性調節/神経性調節/ホルモン性調節/膜透過性の変化/酵素による代謝調節/フィードバック調節	目標 1 - 1. C. e. ホメオスタシス(恒常性) 代謝調節
13	消化・吸収と栄養価	体に必要な栄養素とは/栄養素と食品・食品成分表/食品の摂取・消化・吸収/食品中のエネルギー量/体の消費するエネルギー量/必要な栄養素の量と質/食生活・厚生省の指針/特定保健用食品(機能性食品)	目標 1-8 栄養摂取の機構 E. 代謝体に必要な栄養素 栄養素と食品・食品成分表 食品の摂取・消化・吸収 食品中のエネルギー量 必要な栄養素の量と質
14	血液/尿	血液の成分とそのはたらき/止血機構/血液型  腎臓の構造/ろ過のしくみ/尿生成の体液性調節/尿の性状と成分/腎機能検査	目標 1 - 2 D. 血液の成分とその働き E. 止血機構 F. 血液型 目標 1 - 9 A. 腎臓のろ過のしくみ B. 尿生成の体液性調節
15	免疫 生体防御     各臓器の役割	抗原/抗体/抗体の働き/免疫グロブリンの種類(クラス)/体液性免疫と細胞性免疫/免疫担当細胞   アレルギー エイズ A I D S 後天性免疫不全症候群  運動系(筋肉)/筋肉の構造と収縮/筋肉運動のエネルギー源/筋肉運動における代謝/筋疾患  消化器系(肝臓、小腸) ～ 総まとめ ～	目標 1 - 2 B. b. 抗原 B. c. 抗体、その働き 免疫グロブリンの種類 c. 体液性免疫 d. 細胞性免疫アレルギー 目標 2 - 2. E. c. A I D S 目標 1 - 6. C. 筋の収縮 a. 筋の構造 b. 収縮の機能 目標 1 - 8. D. 消化と吸収 d. 肝臓と胆嚢の構造と機能 e. 空腸・回腸の構造と機能
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		健 康 科 学	担 当 教 員	近 藤 照 彦	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	通 年	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	前期 健康科学について	科目説明、評価、健康手帳記載の指示、回収評価の指示と承認について、問診表、ライフスタイル調査 健康診断検体依頼と承諾			
2	ウォーキング	わらび荘-天文台-テニスコート経由			
3	ウォーキング	温泉センター-セブンイレブン経由			
4	ウォーキング	みどりの村-キャンプ場経由			
4	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択			
5	選択スポーツ	同上			
6	選択スポーツ	同上			
7	選択スポーツ	同上			
8	選択スポーツ	同上			
9	選択スポーツ	同上			
10	選択スポーツ	同上			
11	選択スポーツ	同上			
12	選択スポーツ	同上			
13	選択スポーツ	同上			
14	選択スポーツ	同上			
15	選択スポーツ	同上			
	後期				
1	健康科学について	科目説明、評価、健康手帳記載の指示		骨・筋の解剖と生理	
2	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択			
3	講義	骨格・関節の運動			
4	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択		骨・筋・関節	
5	実習	下肢筋力測定・体力測定			
6	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択			
7	講義	筋肉・関節の運動		呼吸系の解剖と生理	
8	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択			
9	実習	下肢筋力・体力測定			
10	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択		循環器系の解剖と生理	
11	講義	呼吸系の機能と構造			
12	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択			
13	実習	下肢筋力測定・体力測定			
14	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択			
15	講義	循環器系の機能と構造			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		心 理 学 の 基 礎	担 当 教 員	北 川 公 路	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	医療と心理学	心理学とは何か 医療と心理学、心理学の関連領域			
2	心理学の諸理論	心理学の起源 精神分析理論 行動理論、認知理論			
3	学習	条件づけ 認知学習			
4	記憶	短期記憶と長期記憶 記憶障害			
5	感覚と知覚	五感のはたらき			
6	情動	情動 感情の機能			
7	動機づけ	動機づけ 動機づけの種類			
8	社会心理学	社会的認知 人間関係			
9	ストレス	ストレスとは何か ストレスの心理生物学的影響			
10	パーソナリティと自	パーソナリティの諸理論			
11	己理解	パーソナリティの形成 性格検査			
12	知能	知能、知能検査 知能の発達と障害			
13	こころの発達	発達諸理論 親子関係の発達、生涯発達心理学			
14	臨床心理学と心理療	臨床心理学			
15	法	心理療法 カウンセリング			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		国文学入門( ' 0 0 )	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	国文学とは				
2	上代文学( )				
3	上代文学( )				
4	平安文学( )				
5	平安文学( )				
6	中世文学( )				
7	中世文学( )				
8	近世文学( )				
9	近世文学( )				
10	日本漢文字の流れ				
11	日本演劇				
12	近代文学( )				
13	近代文学( )				
14	近代詩歌				
15	結びに代えて				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		教 育 学	担 当 教 員	平 形 作 太 郎	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	オリエンテーション	使用教材(教科書・参考書)・使用用具 講義題目と教科内容・時間割・教育方法・評価方法			
2	教育の本質	教育の多義的性格・教育の概念			
	1 教育の概念	遺伝説・環境説・輻輳説			
	2 遺伝と環境	発達、成熟と学習、成熟の適時性、適時性と学習			
	3 成熟と学習	成熟・学習・教育			
3	4 社会と人間形成	人間形成の場としての社会、家庭・地域社会・仲間集団と人間形成			
	5 生涯学習	自己学習による知識・技能の習得、学び方の学習			
4	6 教授と学習	教授 = 学習の process			
	教育の目的	教育目的の基本的意義と性格 教育目的の種類			
5	1 教育目的の基本的意義	社会を反映する教育目的 今日視点での教育目的			
6	2 社会を反映する教育目的	学校教育の目的と課題			
	3 学校教育の目的	教育基本法・学校教育法の教育目的 教育目的の今日的課題			
7	4 教育目的の現代的課題	教育課程の意味 教育内容の選択と配列			
	教育の内容	内容構成の観点からの類型 教科間の観点からの類型			
8	1 教育課程の意味	編成の国家基準 高等教育の本質・目的・内容			
9	2 教育課程の種類	教育課程の評価、教育課程評価と授業評価			
10	3 教育課程の編成	学校としての教育課程の評価			
	4 教育課程の評価	個別教育から集団学習へ、教授方法の改善			
	教育の方法	学習指導の個性化と社会化			
11	1 教育方法の近代化	学習指導の意義、学習指導の原理			
12	2 学習指導	学習指導過程、代表的な学習指導方式の過程(系統学習・問題解決学習・プログラム学習・発見学習)			
13	3 学習指導の過程	ティームティーチング、視聴覚利用			
	4 学習方法の新しい試み	コンピュータ利用			
	5 生活指導	生活指導、職業指導、社会的・道徳的指導			
14	教育の評価	教育評価の意義 指導資料、教育者の反省、教育管理			
15	1 教育評価	評価の目標と用具、評価資料の処理と解釈			
	2 教育評価の目的	教育の現代的課題			
	3 教育評価の目標	proposal を書く、発表、publish or perish			
	4 教育者評価				
	5 成果の記録				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ 論	担 当 教 員	北 川 公 路
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 ~ 5 6 ~ 9 10 ~ 12 13 ~ 15	カウセリングとは 何か カウセリングの 理論と方法( ) カウセリングの 理論と方法( ) カウセリングと 心理テスト 事例研究	カウセリングの特徴 カウンセラーの役割 クライアント中心療法  行動カウセリング 認知行動カウセリング 精神分析的アプローチ カウセリングにおける心理テストの意義と役割 心理テストの種類 質問紙による人間理解 看護の面接事例  実習(ロールプレイ、紙上応答訓練)を随時行いながら 進めていく	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		現代人のための哲学( ' 00)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	現代とはどういう時代か				
2	科学とは何か				
3	技術の光と影				
4	自然の生命の大切さ				
5	脳と心				
6	人間の内面性				
7	生きる根拠				
8	悪の問題				
9	行為の規範				
10	人生の苦悩について				
11	情念の問題				
12	死について				
13	歴史のゆくえ				
14	祈りと希望				
15	神は存在するか				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		日本の文化と思想（'98）	担 当 教 員		
対 象 学 生（収 容 数）		1 ・ 2 学 年	学 期		前 期
単 位（コ マ 数）		2 単 位（15 コ マ）	選 択		講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容			国 家 試 験 出 題 基 準
1	日本文化史の見方	*本年度開講せず			
2	神々の祭りとは日本神話				
3	仏教の伝来と受容				
4	律令制度と官人の学問				
5	かな文字の成立と国文学				
6	仏教の革新と庶民への浸透				
7	公家と武家の文化				
8	芸能の成熟				
9	儒教とその日本化				
10	国学と洋学				
11	町人文化とその思想				
12	知識人と西欧の思想				
13	日本中心の思想				
14	近代日本の諸宗教				
15	国際社会における日本文化				
テキスト					
参考書					



授 業 科 目 名	情 報 処 理 入 門	担 当 教 員	西 谷 泉
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>現在は高度情報化社会である。医療看護の世界にも情報化の波は着実に押し寄せており、今後医療関係の世界で活躍する本学の学生にとって、情報科学、情報処理、コンピュータの知識と技術の修得は必要不可欠なものとなってきている。</p> <p>本講義と演習は連続した内容である。よって、情報処理入門と情報処理入門演習は続けて履修すること。この講義の中では、Word、Excel を使用して、主に情報処理の基本的な知識、コンピュータを活用した文書作成の基本知識と技術、統計学の基礎知識などについて理論と実習の指導を行う。</p> <p><b>《授業計画》</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.情報、情報処理の基礎知識</li> <li>2.Windows の基礎知識</li> <li>3.Word 入門</li> <li>4.文字入力</li> <li>5.文書入力、文書の作成</li> <li>6.文書の訂正、修正</li> <li>7.文書の編集</li> <li>8.文書と表の結合</li> <li>9.計算機能</li> <li>10.ビジュアルな文書の作成</li> <li>11.インターネットの活用</li> <li>12.課題作成</li> <li>13.Excel の基礎知識</li> <li>14.Excel 入門</li> <li>15.ワークシートの活用</li> <li>16.試験</li> </ol> <p>本講義は「情報処理入門演習」と連携して進めるので、「情報処理入門演習」も必ず受講すること。</p> <p>本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについての予備知識をとくに必要としない。</p> <p>試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。</p>	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		情 報 処 理 入 門 演 習	担 当 教 員	西 谷 泉
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>現在は高度情報化社会である。医療看護の世界にも情報化の波は着実に押し寄せており、今後医療関係の世界で活躍する本学の学生にとって、情報科学、情報処理、コンピュータの知識と技術の修得は必要不可欠なものとなってきている。</p> <p>本演習は情報処理入門に続くものである。よって、情報処理入門と情報処理入門演習は続けて履修すること。この演習の中では、Excel、Power Point を使用して、主にデータ処理の基礎知識と方法、研究成果の発表等のためのプレゼンテーションの基礎知識と方法技術などについて理論と実習の指導を行う。</p> <p><b>《授業計画》</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.統計学の基礎</li> <li>2.Excel の基本</li> <li>3.合計、平均の計算</li> <li>4.関数の活用</li> <li>5.最大・最小</li> <li>6.グラフ作成の基本</li> <li>7.様々なグラフ</li> <li>8.データベースの基本事項</li> <li>9.データのソート、検索、集計</li> <li>10.Word への Excel の埋め込み</li> <li>11.Power Point の基礎</li> <li>12.プレゼンテーションの基本事項</li> <li>13.プレゼンテーションの作成</li> <li>14.研究課題作成</li> <li>15.研究課題の発表(プレゼンテーションの実習)</li> <li>16.試験</li> </ol> <p>本講義は「情報処理入門」と連携して進めるので、「情報処理入門」も必ず受講すること。</p> <p>本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについての予備知識をとくに必要としない。</p> <p>試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。</p>		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名	数	学	担 当 教 員	石 井	満
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1	学 年	学 期	前	期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )		選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
		1 行列 1)定義 2)演算 3)行列の諸性質とその応用  2 微積分 1)微分とその応用 2)積分計算とその応用 3)確率密度			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		統 計 学	担 当 教 員	石 井 満
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
		医療、看護分野のデータを例題に用い 1.記述統計 2.正規分布 3.推定 4.検定 について講義する。		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名		社会保障制度と生活者の健康	担 当 教 員	金 谷 春 代	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	社会保障の概念	私達の生活と社会保障 社会保障の歴史を通して社会保障の捉え方を考える。		1. 社会保障の理念 A.わが国の保健・医療・福祉活動の基本方向 a.理念、憲法 25 条 b.人権、倫理、情報公開 c.権限移乗 d.介護サービス供給体制 e.医療サービスの供給体制 f.介護保険・医療保険制度改革	
2	社会保険の概要	社会保障における社会保険の意味を考えながら、日常生活の中で、社会保険がどのような役割をしているのかを捉える。 健康保険法・国民健康保険法等の制度と概要を捉える。		2. 社会保険制度 A.社会保険 a.歴史、意義 b.国民皆保険・皆年金 c.種類 d.被保険者別体制 B 健康保険法 a.保険者・保険料・被保険者・被扶養者 b.保険給付の種類、機関 c.療養の給付内容、方法 d.現金給付、給付の範囲、割合 C 国民健康保険法 a.保険者、被保険者 b.給付 c.保険料 D 労働者災害補償保険法 a.目的・範囲 b.保険者・保険料 c.保険給付の種類	
3	社会福祉の概念			3. 社会福祉諸法の理念と施策 A.生活保護法と施策 a.生活保護法の原則 b.実施機関 c.保護の実施 B.児童福祉法と施策	
4	生活保護法と施策	社会福祉の歴史から福祉の意義を考える。		a.児童憲章 b.児童福祉の対象 c.実施機関 d.育成医療 e.児童福祉施設 f.保育、保育所	
5	児童福祉法と施策	現代社会の中での生活保護とは何かを考え、制度概要を捉える。		C.身体障害者児福祉施策 a.対象、範囲 b.在宅施策 c.肢体不自由児施設 d.重症心身障害児施設 e.学校教育	
6	身体障害者・児福祉と施策	児童を廻る問題と課題について、施策の流れの中で捉え、少子化問題を考える。		D.障害者・児の施策 a.障害者基本法 b.身体障害者福祉法 c.身体障害者手帳 d.実施機関 e.診査、更生相談、更生医療	
		身体障害者・児の福祉と施策についての概要を捉える。		E.知的障害者・児の施策 a.精神薄弱者福祉の対象 b.早期教育 c.通園施設、福祉施設、学校教育 d.生活能力訓練事業	

回	講義題目	教 科 内 容	国家試験出題基準
7	知的障害者・児福祉と施策	知的障害者・児福祉と施策についての概要を捉える。	F.精神障害者の施策 a.精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の理念 b.実施機関 c.社会復帰 d.精神障害者保健福祉手帳
8	精神障害者・児福祉と施策	精神障害者・児福祉と施策についての概要を捉える。	G.老人福祉法と施策 a.老人保健福祉計画 b.老人福祉施設 c.在宅介護支援センター d.在宅サービスの種類
9	老人福祉と施策		H.老人保健法と施策 a.老人保健施設 b.老人訪問看護事業 c.老人保健事業 d.老人医療
10	老人保健法と施策	高齢化社会が社会にもたらす影響を考えながら、福祉・保健のあり方がどのように変化してきたかを捉える。	4. 社会福祉行政 A.保健福祉計画 a.ゴールドプラン b.エンゼルプラン c.障害者プラン d.保健福祉計画
11	介護保険法		B.社会福祉の民間活動 a.民生委員、児童委員 b.社会福祉協議会 c.ボランティア活動
12		高齢者にとっての医療の変遷を見ながら、医療のあり方を考える。	C.国、地方公共団体の行政と組織及びマンパワー
13	社会福祉行政	高齢者から始まった社会保険方式の介護保険がもたらす影響と制度について学習する。 社会福祉に関係する行政機関等について学習する。	a.福祉事務所 b.児童相談所 c.社会福祉施設 d.在宅サービス機関 e.介護支援専門員 f.社会福祉士及び介護福祉士 g.精神保健福祉士
14	マンパワー		D.老人保健福祉行政の展開 a.入所措置権の町村への移譲 b.市町村及び都道府県の老人福祉計画 c.高齢者の生きがい対策
15	試 験	現代に求められる福祉のマンパワーについて考える。	
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名	社会保障制度と生活者の健康	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	公衆衛生の基本概念	健康の概念 公衆衛生の概念 プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション WHO 疫学	目標 3-1 健康と公衆衛生 A 公衆衛生の概念 a.公衆衛生の領域、活動の特徴 b.プライマリヘルスケア c.ヘルスプロモーションの展開 d.世界保健機構加盟国の役割 C.疫学的方法による健康の理解 a.a. 暴露人口 a.b. 量 - 反応関係 a.c.疫学的因果関係推定 a.d.横断研究・縦断研究
2	健康の指標	粗死亡率と年齢調整死亡率 乳児死亡率	3-2 健康指標と予防 A 健康に関連した指標 d.死亡・死因死産、周産期死亡、乳児死亡
3	健康の指標	平均余命と平均寿命 PMI 死因別死亡率	f.平均余命、平均寿命
4	健康の指標 人口統計	人口静態と人口動態 5 事象 粗出生率 合計特殊出生率 再生産率 人口の高齢化	a.国勢調査 b.人口静態 c.出生
5	環境保健	物理学的環境 化学的環境 生物学的環境 社会環境	B 健康と環境 a.a.生態学的環境 a.b.物理化学的環境 c.社会的環境 a.d.身体的、精神・心理的影響
6	食品衛生	水の衛生と水質汚濁 一般廃棄物と廃棄物処理 水の衛生と水質汚濁 一般廃棄物と廃棄物処理	3-3 生活環境の保全 B ゴミ・廃棄物 a.a.一般廃棄物と産業廃棄物 a.b.市町村の責任 a.c.生活排水処理 A.食品管理及び家庭用品 a.食品衛生管理者 b.食品衛生管理者 c.有害物質の表示 d.化学物質の安全対策 e.家庭用品の安全対策
7	疾病予防と健康管理	食中毒とその予防 食品衛生 国民栄養調査	2-2B 感染症とその予防 a.a.感染症の成立要因 a.b.感染症の流行現象
		感染症の成り立ち(感染源 感染経路 宿主)とそれぞれの遮断手立て	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
8	疾病予防と健康管理	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、結核予防法	a.c.感染症予防の基本 a.d.感染症法 a.e.予防接種法
9	疾病予防と健康管理	疾病予防の3段階と各段階の主要方法	a.f.結核予防法
10	疾病予防と健康管理	虚血性心疾患 脳血管疾患 糖尿病	目標 1-2 ライフスタイル C.生活習慣の確立 a 発達課題別生活習慣の確立
11	地域保健と行政	地域保健活動 保健所 市町村保健センター	b 生活習慣病の概念 c ヘルスプロモーションへの取り組み 目標 3-4 地域保健
12	産業保健	健康管理 作業管理 作業環境管理	E 生活習慣病予防 a.健康教育と早期発見 b.がん予防
13	産業保健	職業病・業務上疾病 労働災害	c.循環器疾患の予防 d.糖尿病予防
14	母子保健	母子保健法による事業	A 地域保健 a.地域保健法の理念指針
15	母体保護 学校保健 難病対策	母体保護 健康診断、健康相談、保健教育、安全管理 特定疾患	b.市町村保健センター c 保健所 G 職場の健康管理 a 労働安全衛生法 d.作業管理・作業衛生管理 b.健康管理・職業病予防 c.トータルヘルスポロモーション B 母子保健 a 母子保健法. b.母子健康手帳 c.保健指導・訪問指導 a.d.健康 診査・健康教育 a.e.養育医療. C 母体保護 a.母胎保護法 b.不妊 手術 c.人工妊娠中絶手術 d 受 胎調節指導 e.届出・禁止・秘密 保持 D.学童期の健康管理 a.健 康診断・健康相談 b.感染予防 c 学校環境衛生 F.難病対策 a.a.特定疾患 b. 医療費公費負担制度
テキスト			
参考書			



授 業 科 目 名	社会保障制度と生活者の健康	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	世界の保健医療と福祉(1)	人間の社会と生活から世界の保健医療と福祉のかかわりを見て	目標 2-1 社会保障の理念 A わが国の保健医療福祉活動の基本方向
2	世界の保健医療と福祉(1)	世界の国々の社会、経済発展と保健医療と福祉問題とその対応について	d 介護サービス供給体制
3	世界の保健医療と福祉(1)	世界諸国の暮らしにみる「古典的貧困原因」と「現代的貧困原因」	e 医療サービス供給体制
4	世界の保健医療と福祉(1)	世界の国々にみる、人間の「生存、生活の権利」とその公的生活保障システムの展開	f 介護保険・医療保険制度改革
5	法規	法規の概念、法規の種類、衛生法規	
6	医事法規(1)	医療法□	目標 4-1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割
7	医事法規(2)	医療法□	A 医療法・薬事法 a 医療法・薬事法の理念 b 医療施設の機能 c 救急医療の充実
8	医事法規(3)	保健師助産師看護師法□	d 診療記録・情報公開
9	医事法規(4)	保健師助産師看護師法□	B 保健師助産師看護師法 a 目的・意義 b 免許 c 義務
10	医事法規(5)	理学療法士及び作業療法士法	A 医療法・薬事法
11	医事法規(6)	医師法	a 医療法・薬事法の理念
12	薬事法規	薬事法	e 薬局の種類と機能 f 医薬品と医療用具の取り扱い g 毒薬・劇薬の取り扱い
14	保健衛生法規(1)	地域保健法、母子保健法、老人保健法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
15	保健衛生法規(2)	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	
	労働基準法	労働条件、労働契約、労働時間、保護	C 労働基準法 a 労働条件の原則 b 労働契約 c 労働時間 d 年少者・女子 e 労働災害補償
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		家 族 論 ( ' 0 1 )	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	「家族とは何か」における多義性				
2	ヒトと人間の交差する場としての家族				
3	家族と法				
4	家族と社会政策				
5	企業社会と家族				
6	人口の再生産と家族				
7	家族の発達と個人のライフコース				
8	歴史のなかの家族				
9	変化する家族の機能				
10	育児と生涯発達				
11	高齢者介護と老後問題				
12	変わりゆく結婚				
13	脱「近代家族」への道				
14	家族のアイデンティティ				
15	「社会の中の家族」の現状と未来				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名	ケ ア の 社 会 科 学	担 当 教 員	内 藤 和 美	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	具体的問題に即して	社会学とは、刑事裁判の話		目標 2-1 社会保障の理念 A わが国の保健・医療・福祉活動の基本方向 b 人権、倫理、情報開示 c 権限移譲 e 医療サービスの供給体制
2	具体的問題に即して	ハンセン訴訟について		目標 1-1 生活基盤 A 生活単位
3	具体的問題に即して	男女問題(婚姻制度)1		a 世帯、世帯の形成 b 住居
4	具体的問題に即して	男女問題(婚姻制度)2		c 家族周期 C 地域における人間
5	具体的問題に即して	医療の問題 1		関 a 親族・近隣・交際のネットワーク b 地域のソーシャルサポートネットワーク
6	具体的問題に即して	医療の問題 2		目標 2-1 社会保障の理念 A わが国の保健・医療・福祉活動の基本方向 e 医療サービスの供給体制
7	ケア	ケアとはどういうことか 他者のケアを役割にすることが孕む一面のリスク リスクを回避するには		a 理念、憲法 25 条 b 人権、倫理、情報開示 d 介護サービスの供給体制
8	「家族」ととらえる	「家族」の概念 現代家族の特徴 家族と世帯 国際家族年に示された家族の理念 世帯の動向 多様化 個人化 私事化		目標 1-1 生活基盤 A 生活単位 a 世帯、世帯の形成 目標 1-2 ライフスタイル B ライフスタイルの変化 d 家族観の多様化
9	「家族」の機能	生活保障 感情機能		目標 1-1 生活基盤 B 家庭生活の基本機能と地域の特性 a 健康、食、衣、住、移動 b 娯楽、教育、教養 c 情報、交際 d 労働目標 1-2 ライフスタイル
10	「家族」機能の破綻とその解決援助	労働の変化 d 家族観の多様化		A 育児機能と介護機能の変化
11	「家族」機能の破綻とその解決援助	目標 1-3 人間の集団としての働き A 集団の形成・発達 B 集団の意思決定 戦後日本社会は「性別」についてどのような慣習や通念を組み込んできたか - 二重の悪循環□		a 夫婦役割機能の変化 b 家族内介護者の変化 c 育児と介護の社会化 d 家事機能の変化 B ライフスタイルの変化 a 雇用労働の進行、女性労働の変化 d 家族観の多様化
12	ジェンダー	二重の悪循環を乗り越え、ジェンダーバイアスを乗り越え・・・これからの社会は		目標 1-3 人間の集団としての働き A 集団の形成・発達 B 集団の意思決定
13	ジェンダー	セクシュアル・ハラメント		
14	ジェンダー			
15	試験			
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名		社会調査の基礎( ' 01)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	社会を調査する				
2	調査の種類				
3	調査票調査の設計				
4	調査票を作る				
5	サンプリングと実査				
6	集計と統計量				
7	2変数の関連				
8	検定の考え方				
9	検定の実際				
10	パソコンによるデータ解析				
11	多変量データ解析				
12	自由面接				
13	参与観察				
14	メディアの利用				
15	調査結果のまとめと表現				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		経 済 学	担 当 教 員	坂 本 俊 造	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	講義のねらい	将来、社会人として必要と思われる経済の知識を易しく伝授するのが目的。15 時間という限られた時間数の中で、あくまで現実の経済の動きを中心に講義します。「経済学」からまず「学」を外して考えてください。			
2	経済の仕組み	1)何が経済を動かすのか 2)GDP(国内総生産額)とは			
3	景気指標の見方	1)景気変動とは 2)景気の現状と先行きを読む方法			
4	物価変動の背景	1)インフレとデフレ 2)デフレ経済の特徴			
5	為替レートの変動	1)変動相場制への推移 2)円が安くなったり高くなる理由			
6	少子・高齢化問題	1)少子、高齢化の現象 2)少子・高齢化が経済、社会に及ぼす影響			
7	政府・日銀の経済政策	1)経済変動に対する政府、日銀政策の役割 2)日本の財政悪化の理由			
8	経済のグローバル化をめぐって	1)EU,NAFTA など地域統合の進展 2)貿易紛争と WTO の役割 3)アジア経済の特徴			
		注：以上はあく迄骨格を示すもので、現実の動きに照らして変更する予定			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		生活学入門-日常生活の探求-	担 当 教 員	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	言葉(1)言葉と世界	*本年度開講せず		
2	言葉(2)名前			
3	言葉(3)言葉と社会			
4	身体(1)自然・身体・社会			
5	身体(2)「私」と身体			
6	身体(3)身体・生命 - その再生産 -			
7	メディア(1)電話			
8	メディア(2)テレビ			
9	メディア(3)空間移動のメディア			
10	他者(1)「あなた」			
11	他者(2)「彼・彼女」 他者(3)「彼ら」			
12	時間(1)時計と手帳			
13	時間(2)生活時間の構造			
14	時間(3)年齢			
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名	英語 (基礎英語・医学英語)	担 当 教 員	川 口 恵 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	年間授業の説明	
2	What is a nurse?	看護とは何かを英語で読む	
3	What kind of things nurses do?	看護の仕事内容を英語で理解し、英語の質問に答える練習	
4	History of Nursing	看護の歴史を英語で読む	
5	History of Nursing	上記に付随する質問に英語で答える練習	
6	Patient-Nurse Relationship	患者と看護師の関係についての英文を読む。	
7	Personal Details	患者に対する問診の英会話の練習	
8	Review	今までの復習と応用	
9	Communication with a patient	患者とのコミュニケーションに関する英文を読む	
10	Listening to a patient	患者とのコミュニケーションを想定した英会話の練習	
11	Intercultural communication with a patient	外国人の患者に関する英文を読む	
12	Avoiding problems	外国人の患者との英会話を練習	
13	Solving problems	外国人の患者との英会話を練習	
14	Review	前期授業の復習とまとめ	
15	Examination	前期末試験	
16	Semi-introduction	後期授業の説明	
17	Doctor-nurse relationship	医師と看護師の関係についての英文を読む	
18	Doctor-nurse relationship	医師と看護師の英会話を練習	
19	Related professionals	関連専門職についての英文を読む	
20	Health care team	看護職チームの英会話を練習	
21	Nurses and Hospital	看護師と病院に関する英文を読む	
22	Work of the nurse	看護師の仕事に関する英会話を練習	
23	Review	今までの復習と応用	
24	Community and nurse	地域における看護師についての英文を読む	
25	Community and nurse	地域における看護師の英会話を練習	
26	Nursing in the future	看護職の未来についての英文を読む	
27	Internet	インターネットで看護の未来を調べる	
28	My future	看護師としての将来を英語で語る練習	
29	Review	これまでの復習と応用	
30	Examination	学年末試験	
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		英語 (オーラルイングリッシュ)	担 当 教 員		川 口 恵 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期		通 年
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	選 択		講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容			国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	年間授業の説明			
2	Basic conversations	看護英語の基礎的な会話の聞き取りと練習			
3	At the surgery	外科病棟での会話の聞き取りと練習			
4	Self introduction	自己紹介と相手のことを尋ねる会話の練習			
5	Asking problems	患者の症状を尋ねる会話の練習			
6	Outpatient clinic	外来患者に対応する会話の練習			
7	Review	今までの復習と応用			
8	Directions	病院内の場所の説明に関する会話の練習			
9	Family History	家族歴をたずねる会話の練習			
10	Patient History	病歴をたずねる会話の練習			
11	Medical Tests	検査の指示などに関する会話の練習			
12	Medical Tests	検査の手順などに関する会話の練習			
13	Words	今までの医療単語を使った会話の練習			
14	Review	前期授業の復習とまとめ			
15	Examination	前期末試験			
16	Semi-introduction	後期授業の説明			
17	Obstetrics	産科外来での会話の練習			
18	Childbirth	出産関連の会話の練習			
19	Pediatrics	小児科関連の会話を練習			
20	Vaccinations	小児科の予防接種関連の会話を練習			
21	Surgery	外科関連の会話の練習			
22	Operation	手術に関する会話の練習			
23	Review	今までの復習と応用			
24	Daily Activities	日常看護の会話の練習			
25	Daily Activities	看護記録を英語で記入する練習			
26	On the Ward	病棟での日常会話の練習			
27	Culture and Religion	外国人に文化や宗教をたずねる練習 インターネットで看護の未来を調べる			
28	My future	看護師としての将来を英語で語る練習			
29	Review	これまでの復習と応用			
30	Examination	学年末試験			
テキスト					
参考書					



授 業 科 目 名		英 語 ( 外 書 講 読 )	担 当 教 員	川 口 恵 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	通 年	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	Introduction	年間授業の説明			
2	All Hell Breaks Loose	ER第1シーズン第10話 "Blizzard" の冒頭部分の英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
3	Black	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
4	From Colors in Triage	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
5	Red	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
6	Yellow	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
7	Green	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
8	Review	今までの復習と応用			
9	A Little Too Green	ER第1シーズン第19話 "Love's Labor Lost" の冒頭部分の英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
10	Sean and Jody O'Brien	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
11	Unconsciousness	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
12	Jody still in ER	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
13	Jody still in ER	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
14	Review	前期授業の復習とまとめ			
15	Examination	前期末試験			
16	Semi-introduction	後期授業の説明			
17	Jody Crashes	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
18	Calling the Code	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
19	High Drama	ER第2シーズン第7話 "Hell and High Water" の冒頭部分の英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
20	A Boy Cries for Help	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
21	A Knife and a Pen	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
22	Life and Death	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
23	Review	今までの復習と応用			
24	The Gift	ER第1シーズン第11話 "The Gift" の冒頭部分の英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
25	On the Ward	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
26	Engagement	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
27	Christmas Day	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。			
28	Appendix	ER1話を鑑賞し英語についてディスカッションする			
29	Review	これまでの復習と応用			
30	Examination	学年末試験			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		ド イ ツ 語 ( ' 0 2 )	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	音と文字(1)				
2	音と文字(2)				
3	動詞の現在人称変化 (1)				
4	名詞の性と格変化				
5	不規則動詞 sein, haben				
6	名詞の複数形				
7	動詞の現在人称変化 (2)				
8	前置詞				
9	否定冠詞、所有冠詞				
10	人称代名詞				
11	命令・要求表現				
12	語順				
13	分離動詞				
14	形容詞：付加語的用法				
15	語法の助動詞				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		フ ラ ン ス 語 ( ' 0 2 )	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		Une rencontre ある出会い			
2		Un rendez vous デート			
3		Trou de mémoire 記憶ちがい			
4		Des gouts et des couleurs 好みの問題			
5		Une inbitation généreuse 気前のよい招待			
6		La residence d ' été 夏の別荘			
7		Peine perdue 骨折り損			
8		Réservation 予約			
9		Notre écrivain préféré お気に入りの作家			
10		Loto ロト			
11		Quel jour sommes-nous aujourd'hui? 今日の曜日は?			
12		La place Furstenberg フュルスタンベール広場			
13		Ce qui n'est pas le Plus facile à faire 最も簡単ではない事柄			
14		Le photographe 写真家			
15		Souvenir d'un été ある夏の思い出			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		スペイン語 ( ' 0 3 )	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	滞在地到着時の表現				
2	簡単な挨拶朝食にて				
3	住む家や品物を描写する				
4	自己について語る				
5	目的地へ行く				
6	入学手続き				
7	外国人の友達と				
8	買い物				
9	食事				
10	天候・暦				
11	時間				
12	趣味・好きなこと				
13	旅行をする				
14	日常生活の行動				
15	健康・病気				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		医 療 と 医 学	担 当 教 員	栗 田 昌 裕	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	医学の歴史 1	医学の起源。古代の医学。中世の医学。		以下「疾」=「疾患の成り立ちと回復の促進」。	
2	医学の歴史 2	近世の医学。20世紀の医学。日本の医学の歴史。		疾-目標 2-A 異常状態に対する診断過程と看護。	
3	病気の診断	問診。診察。臨床検査。臨床診断。遺伝子診断。		疾患-目標 2-B 異常状態に対する治療と看護。	
4	病気の治療	治療法。現代の治療法。安静と食事と看護。			
5	病気の治療と	リハビリテーション医学。総合的医療。		疾-目標 1-1 疾病の概念。	
6	リハビリテーション	目的。病気の回復。慢性疾患。施設と専門職。		A 病むとはどういうことか。	
7	健康と病気と	健康。個人と社会の責任。病気の理解と分類。		同上-B 疾病の誘因と回復力。	
8	医学の体系	病気と心の働き。医学の体系。		同上-B 疾病の誘因と回復力。	
9	病気の原因	病変と症状。病理学の分類と内容。病気の原因。		疾-目標 2-1 異常状態の特徴。A d 循環障害。	
10	病気による身体変化 1	病気の内因と外因。原因不明の病気。身体の抵抗力。病変の分類。血行障害による病変。進行性の病変。退行性の病変。炎症。		同上。1 異常状態の特徴。b 変性。c 壊死。e 萎縮。a 炎症。	
11	病気による身体変化 2	腫瘍。良性腫瘍。悪性腫瘍。白血病。奇形。生体反応。		同上。1 異常状態の特徴。g 腫瘍。	
12	病気による身体変化 3	予防の原則。予防医学と衛生学。		以下、「社」=「社会保障制度と生活者の健康」。	
13	病気の予防 1	健康診断。人間ドック。習慣病の予防。		社-目標 3-1 健康と公衆衛生。2 健康指標と予防。	
14	病気の予防 2	医療システムの概要。自由診療。保険診療。慈善医療。		社-目標 2-4 保健活動。E 生活習慣病予防。	
15	新しい医療システム	新しい健康教育。衛生統計。衛生政策と公衆衛生。医療関係者と施設。医の倫理。		社-目標 3-2 社会保険制度。	
	健康教育と衛生統計			社-目標 4-1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割。	
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		疾病の成り立ちと回復の促進	担 当 教 員	栗 田 昌 裕	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	序論 病理学とは	病理学とは。病因論。内因。外因。公害病と医原病。疾病の分類。		目標 1 1A病むとはどういうことか。1B疾病の誘因と回復力。	
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患。奇形の種類。遺伝の関与と奇形。遺伝異常による疾患。遺伝性疾患の診断と治療。		目標 2 1 異常状態の特徴。A d 先天異常。	
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応。変性。壊死とアポトーシス。細胞の適応。細胞障害の結果としての物質沈着。		目標 2 1 異常状態の特徴。A b 変性。A c 壊死。	
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患。タンパク質代謝異常と疾患。糖質代謝異常と疾患。その他の有機質の代謝異常と疾患。無機質の代謝異常と疾患。		目標 2 1 異常状態の特徴。B b 代謝異常。	
5	循環障害 1	循環器系の概要。循環血液量の異常。充血。うっ血。虚血。出血。ショック。		目標 2 1 異常状態の特徴。A d 循環障害。	
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害。血栓症。播種性血管内凝固。塞栓症。側副循環。リンパの循環障害。		目標 2 1 異常状態の特徴。A d 循環障害。	
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症。炎症の原因。炎症の経過。創傷治癒。炎症の治療。炎症の各型。		目標 2 1 異常状態の特徴。A a 炎症。	
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー。自然免疫系と適応免疫系。免疫担当細胞。抗体と補体。能動免疫と受動免疫。		目標 2 1 異常状態の特徴。B a 免疫。目標 1 1 B 疾病の誘因と快復力。	
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全。先天性免疫不全。エイズ。移植と自己免疫。主要組織適合複合体。膠原病。		同上。目標 2 2E 免疫および自己免疫疾患患者への看護の視点。	
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類。異形度・分化度・悪性度。悪性腫瘍の転移と進行度。		目標 2 1 異常状態の特徴。A g 腫瘍。A f 過形成。	
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理。腫瘍の発生原因。がん発生の外因。がん発生の内因。腫瘍の診断と治療。がんの予防。		目標 2 1 異常状態の特徴。A g 腫瘍。	
12	老化と死	老化とは。ホメオスタシスの老化。主要組織・臓器の老化。死について。		目標 2 1 異常状態の特徴。A c 老化。	
13	病理検査	病理検査の意義。細胞診。生検組織診。手術時の迅速診断。病理解剖。病理組織・細胞診標本の作製課程。		目標 2 2A 異常状態に対する診断過程と看護。A b 一般的検査と特殊な検査。	
14	その他	必要に応じて上記を補う。			
15	その他	必要に応じて上記を補う。			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		疾病の成り立ちと回復の促進	担 当 教 員	武 田 淳 史	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	循環器疾患(1)	心臓の機能と形態の基礎		(疾病の概念)	
2	循環器疾患(2)	先天性心疾患		B 疾病の誘因と回復力	
3	循環器疾患(3)	心筋炎、心筋症		b 先天異常	
4	循環器疾患(4)	弁膜疾患、虚血性心疾患		c 局所・全身障害	
5	循環器疾患(1)	血管疾患、高血圧症		C 個体差と個人の反応	
6	呼吸器疾患(1)	気管、肺の構造、感染症		d 生活習慣から捉えた疾病	
7	呼吸器疾患(2)	閉塞性、拘束性肺疾患の総論		(異常状態の特徴)	
8	呼吸器疾患(3)	気管支拡張症、塵肺、胸膜疾患		A 細胞障害	
9	呼吸器疾患(4)	肺腫瘍		a 炎症, b 変性, d 循環障害、	
10	腎臓疾患(1)	腎臓の構造と機能、尿路感染症		e 腫瘍	
11	腎臓疾患(2)	腎炎、腎癌		B 個体の条件	
12	泌尿器疾患	腫瘍、炎症		a 免疫, d 先天異常	
13	生殖器疾患	奇形、婦人科疾患		(医療と看護)	
14	内分泌疾患(1)	ホルモンの役割、下垂体疾患		B 治療と看護	
15	内分泌疾患(2)	甲状腺、副甲状腺疾患		a 内科・外科治療	
	内分泌疾患(3)	副腎疾患		b 薬物と薬剤	
				D 感染症防止	
				b 微生物の特徴	
				d 治療と予防	
				e 感染防止	
				E 免疫	
				e 移植	
				(疾病の種類と生活)	
				2) 生命維持障害	
				A 呼吸・循環障害	
				a 換気不全	
				b 循環不全	
				c 多臓器不全	
				4) 内部環境障害	
				c 腫瘍	
				b 尿の生成と排出障害	
				6) 遺伝子障害	
				a 生殖器異常	
				d 悪性腫瘍	
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		疾病の成り立ちと回復の促進	担 当 教 員	栗 田 昌 裕	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	消化器系の疾患 1	口腔および食道疾患：口内炎、舌がん、口腔がん、食道炎、食道静脈瘤、食道がん、等。		目標 3 1 3) 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄の障害。B 消化管粘膜の障害と通過障害。	
2	消化器系の疾患 2	胃の疾患：胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍。ポリープ、胃癌、等。		同上。	
3	消化器系の疾患 3	腸・腹膜の疾患：虫垂炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、腸結核、アメーバ赤痢、大腸ポリープ、大腸がん、等。		同上。	
4	消化器系の疾患 4	肝臓の疾患：肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、肝がん、など。		目標 3 1 3) 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄の障害。C 肝臓の機能障害。a 感染による疾病。d 腫瘍。	
5	消化器系の疾患 5	胆嚢・胆管・膵臓の疾患：胆石症、先天性胆道閉塞症、胆嚢がん、等。		目標 3 1 3) 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄の障害。C 胆嚢・膵臓の機能障害。b 胆汁代謝・排泄の障害。d 腫瘍。	
6	血液・造血器系の疾患 1	骨髄の構造と機能。血液検査。赤血球系の疾患。貧血。		目標 3 1 2) B 生命のおびやかし。a 造血機能の異常。	
7	血液・造血器系の疾患 2	白血球系の異常、白血病、等。		同上。	
8	血液・造血器系の疾患 3	リンパ系および脾臓の疾患：リンパ節の疾患、免疫グロブリン合成異常、脾臓の炎症、脾腫、等。		同上。	
9	脳・神経・筋肉系の疾患 1	神経系の構造と特徴。脳血管障害。脳・神経系の感染症：髄膜炎、脳炎(脳脊髄炎)、髄膜脳炎、など。		目標 3 1 1) A 脳の機能低下をおこす疾病。a 脳血管系の循環障害。	
10	脳・神経・筋肉系の疾患 2	脳神経系の変性疾患・脱髄疾患・腫瘍：パーキンソン病。筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、多発性硬化症、ギランバレー症候群、など。		同上。d 脳変性・脱髄性の疾患。	
11	脳・神経・筋肉系の疾患 3	筋肉系の疾患：進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性筋炎、など。		目標 3 1 5) 運動機能の障害。	
12	耳・目・皮膚疾	中耳炎、緑内障、乳頭浮腫などの耳・目の疾患。湿疹、蕁麻疹、皮膚の腫瘍などの皮膚の疾患。		目標 3 1 1) B 感覚器の障害による疾病。	
13	骨・関節系の疾患	骨折、骨髄炎、骨粗鬆症、など。スポーツ障害。骨肉腫、など。		目標 3 1 5) 生活を作り出す機能の障害。移動を妨げる機能の障害。	
14	その他	必要に応じて、以上を補う講義を行う。			
15	その他	必要に応じて、以上を補う講義を行う。			
テキスト					
参考書					



授 業 科 目 名	微 生 物 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 ~ 5 6 7 8 9 10 11 12 ~ 15 16 ~ 19 20 21 ~ 23 24 25 26 27 28 29 30	微生物の世界 入門 細菌感染の基礎  真菌・ウイルス感染 の基礎 感染と発症 1st Midterm Exam 細菌感染の予防と治 療  微生物感染を防ぐ生 体のしくみ  細菌感染症 細菌感染症  真菌感染症  ウイルス感染症  原虫・寄生虫 感染症 2nd Midterm Exam 特殊な患者における 感染症 変貌する感染症とそ の対策	微生物の誕生と種類 / 大きさや形 / 微生物と私たち の生活 / 微生物とヒトの病気 細菌の性状 / 細菌の生理 / 細菌の遺伝 / 細菌の分類  真菌の特徴と分類 / ウイルスの特徴と分類 / ウイル ス感染症 感染と発症 / 感染症成立の要因 第 1 ~ 8 回 滅菌と消毒 化学療法  免疫 抗原 抗体 免疫系細胞 補体 免疫応答 微生物免疫 グラム陽性球菌/芽胞形成性グラム陽性通性嫌気性細 菌/芽胞形成性グラム陽性嫌気性桿菌/グラム陽性無芽 胞嫌気性桿菌/グラム陽性無芽胞桿菌/グラム陰性球菌 および球桿菌/グラム陰性通性嫌気性桿菌/グラム陰性 好気性桿菌/グラム陰性らせん状細菌/スピロヘータ/ グラム陰性嫌気性桿菌/抗酸菌/放線菌/マイコプラズ マ/リケッチア/クラミジア 接合菌類/子囊菌類/担子菌類/不完全菌類/分類の不明 な真菌 DNA型ウイルス/RNA型ウイルス/肝炎ウイルス/ スローウイルス感染症およびプリオン病  原虫/蠕虫 第 16 ~ 25 回 院内感染症/新生児感染症/妊婦の感染症/移植患者の 感染症/癌患者の感染症/高齢者の感染症 MRSA/VRE/緑膿菌/多剤耐性結核菌/腸管出血性 大腸菌O157 感染症とHUS/C型肝炎ウイルス/レジ オネラ/クリプトスポリジウム属原虫/HIV(ヒト免 疫不全ウイルス)/プリオン病  ~ 総まとめ ~	目標 2 - 2. 疾病に対する医療と 看護 D.a. 微生物の分布 と人体 D.b. 微生物の種類と特徴  D.b. 微生物の種類と特徴 D.c. 病原微生物の感染経路と潜 伏期間  目標 2 - 2. 疾病に対する医療 と看護 D. 健康な機能維持をお びやかす感染の防止 d. 病原 微生物に対する予防処置・治療 目標 1-2. 生体の防御機構 B 特異的生体防御反応  目標 2 - 2. 疾病に対する医療と 看護 D. 健康な機能維持をおび やかす感染の防止 b. 微生物の 種類と特徴  目標 2-2.D. 健康な機能維持をお びやかす感染の防止  D. 健康な機能維持をおびやかす 感染の防止 D.e. 感染の蔓延を防ぐ手段 E.c. AIDS/HIV感染症 D.e. 感染の蔓延を防ぐ手段
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		薬 理 学	担 当 教 員	栗 田 昌 裕	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	通 年	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	薬物療法の基礎	治療・予防における薬の位置付け		2B a : 内科的治療と外科的治療	
2	薬物動態	投与経路と薬の吸収, 代謝, 排泄		2B b : 薬物と薬剤 2B c : 薬物に対する生体の反応 2B d : 与薬方法と薬理作用	
3	薬力学	薬の作用メカニズム, 薬の副作用		2B c, 2B d, および 2B f : 薬物中毒	
4	中枢神経作用薬 1	抗不安薬, 睡眠薬, 抗うつ薬, 抗躁薬		2B e : 主な治療薬とその特徴	
5	中枢神経作用薬 2	統合失調症治療薬		2B e, および 1 1C a : 精神機能の統合の障害	
6	中枢神経作用薬 3	てんかん治療薬, パーキンソン病治療薬		2B e	
7	中枢神経作用薬 4	痴呆治療薬, 脳循環代謝改善薬		2B e, および 1 1A a : 脳血管系の循環障害	
8	麻酔薬	全身麻酔薬, 局所麻酔薬, 筋弛緩薬		2B e, および 2B g : 手術適応の決定と麻酔	
9	自律神経作用薬 1	交感神経刺激薬, 交感神経抑制薬		2B e	
10	自律神経作用薬 2	副交感神経刺激薬, 抑制薬		2B e	
11	循環器用薬 1	高血圧治療薬		2B e	
12	循環器用薬 2	狭心症・心筋梗塞治療薬, 不整脈治療薬		2B e, および 1 - 2A b : 循環不全をおこす疾病	
13	循環器用薬 3	心不全治療薬, 末梢循環改善薬		2B e, 1 - 2A b	
14	代謝性疾患治療薬 1	高脂血症治療薬		2B e	
15	代謝性疾患治療薬 2	糖尿病治療薬		2B e, および 1 - 3C c : 糖代謝障害	
16	呼吸器用薬 1	気管支喘息治療薬		2B e, および 1 - 2A a : 換気不全をおこす疾病	
17	呼吸器用薬 2	鎮咳薬, 去痰薬		2B e	
18	消化器用薬 1	消化性潰瘍治療薬		2B e, および 1 - 3B a : 消化管粘膜の障害と通過障害	
19	消化器用薬 2	消化管運動調整薬, 下剤, 止痢薬		2B e	
20	化学療法薬 1	細菌感染治療薬		2B e, および 2D d : 病原性微生物に対する予防処置, 治療	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
21	化学療法薬 2	ウイルス, 真菌感染治療薬, 抗ガン剤	2E b : 化学療法と薬剤耐性 2B e , 2D d , 2E b
22	化学療法薬 3	非ステロイド系抗炎症薬, ステロイド剤	2B e
23	抗炎症薬	非麻薬性鎮痛薬, 麻薬性鎮痛薬	2B e
24	鎮痛薬	免疫抑制剤, ステロイド剤, リウマチ治療薬	2B e , および
25	免疫抑制剤		2E d : 自己免疫疾患
26	抗アレルギー薬	抗ヒスタミン薬, その他の抗アレルギー薬	2B e
27	内分泌関連薬	ホルモン薬, 内分泌機能抑制薬	2B e , および 1 - 4A : 内分泌機能の低下・亢進 1 - 6A c : 加齢による身体の変化とホルモン療法
28	ビタミン, ミネラル	水溶性・脂溶性ビタミン, 鉄製剤, 骨代謝治療薬	2B e , および 1 - 3A b : 必須栄養素の不足とアンバランス
29	漢方薬	漢方治療の基本と主要なエキス剤	2B e
30	まとめ		
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		リハビリテーション概論	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
1		リハビリテ - ションの定義と理念	基礎看護学 [ 3 ] (臨床看護総論) : 第 3 章 C「リハビリテーション看護」 成人看護学 [ 1 ] (成人看護学総論) : 第 10 章「リハビリテーション過程にある患者の看護」 障害の理解・受容への看護 合併症・事故の予防への看護 日常生活活動の自立性再獲得への看護 在宅看護論 : 第 4 章 V-7「移動動作および日常生活動作の援助」 老年看護学 : 第 6 章 A-3-1「移動動作」 リハビリテーション看護 : 第 4 章 V-3-6「歩行」 成人看護学 [ 9 ] (運動器) : E2-3「歩行器」、E-2-4「松葉杖」、E-2-5「T杖」 リハビリテーション看護 : 第 4 章 V「姿勢・移動に関するリハビリテーション」	
2		リハビリテ - ションの歴史		
3		リハビリテ - ションの構成と地域リハビリテ - ション		
4		医学的リハビリテ - ションの流れと対象 リハビリテ - ション医療関連職種とチ - ムワ - ク		
5		障害論 障害の 3 つのレベル 障害者心理		
9		障害学 1(関節拘縮、関節変形)		
7		障害学 2(筋萎縮、神経麻痺)		
8		評価学 1(患者の情報、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力測定)		
9		評価学 2(協調性検査、高次脳機能検査、言語障害検査、心理テスト、日常生活活動検査)		
10		治療学 1(運動療法、物理療法、作業療法)		
11		治療学 2(補装具療法)		
12		脳卒中のリハビリテ - ション 1(分類、障害)		
13		脳卒中のリハビリテ - ション 2(発作直後の処置、急性期の看護、臥位訓練、基本的訓練、)		
14		脳卒中のリハビリテーション 3(起居・立ち上がり訓練、移乗動作訓練、歩行動作訓練、階段昇降動作訓練、日常生活動作訓練)		
15		脳卒中のリハビリテーションの実際 1  脳卒中のリハビリテーションの実際 2		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名		救 命 救 急 医 療	担 当 教 員	北 林 司	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 ~ 2	救急医療と看護	救急医療の変遷と今後の課題を理解する。 救急医療における看護の役割を理解する。		目標 2-1 健康レベルに応じた看護 C.救急救命時・急性期の看護	
3 ~ 4	救急患者とその家族	救急患者の身体的・精神的・社会的特性を理解する。 救急患者の家族の状況を把握する必要性と、適切な看護介入を理解する。		a.症状に対する不安と理解促進への看護 b.治療・検査・入院による生活活動制限への看護	
5 ~ 6	救急患者に関する情報収集とアセスメントの視点	生命の危機的状況と判断基準を理解する。 救急時の検査と優先順位を理解する。 緊急手術の適応と看護介入を理解する。		c.人工呼吸法と挿管に伴う看護 d.バイタルサインのモニタリング	
7	重篤な病態と看護	重篤な病態と看護を理解する。		e.家族への看護	
8	特殊な病態と看護	特殊な病態と看護を理解する。			
9 10	災害と救護活動	救護災害時の看護の役割を理解する。 トリアージの方法を理解する。			
11	救命時の看護	心肺脳蘇生方を理解する。			
12 13	心肺脳蘇生法演習	シュミレーターを用いて適切な心肺蘇生法が実践できる。(気道確保、人工呼吸、心臓マッサージなど)			
14 15	災害地での救護活動演習	災害地の救護所におけるトリアージが実践できる。 (大規模地震を想定して)			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		看 護 学 の 基 礎	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	通 年	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	基礎看護学とは	看護学教育における基礎看護学の位置づけについて学ぶ。		目標1	
2	看護とは	看護の本質、看護師とはどんな職業か、および看護職の果たす役割などについて学ぶ。		1看護の基本となる概念 A看護の本質	
3	健康とは	健康の概念と健康成立の条件について学ぶ。		a対象、b役割、c機能 C人間にとっての健康	
4	健康とは	健康観について学習し、自己の健康に対する考えを		a健康のとらえ方	
5	対象としての人間	全体としての人間、基本的ニードなどについて理解する。		b健康に影響を与えるもの B看護の対象としての人間	
6	対象としての人間	社会および文化と人間の関わりについて学ぶ。		a人間のとらえ方	
7	人間の生活	生活体としての人間について学ぶ。		b人間と環境 D人間の生活	
8	健康障害とは	健康障害とその影響について学ぶ。		a生活のリズム、b生活歴、 生活習慣、c生活の要素、d QOL	
9	疾病と病い	医療人類学や民俗学からみた疾病と病いについて学ぶ。		疾病の成り立ちと回復促進	
10	看護の歴史	看護の原点について学ぶ。		目標1	
11	看護の歴史	看護の発展と近代化について学ぶ。		1.疾病の概念ー看護学視点 C個体差と個人の反応	
12	生活体験	自然の中の生活について考える。		a症状に対する不安と対処 行動、b生活への影響に対す る不安と対処行動、 c生活規制や隔離・疎外など に対する個人の反応と対処 行動、d疾病を生活習慣との 関連で過程としてとらえる 視点、e生活調整の考え方と 方法	
13	生活体験	自然の中の生活について考える。		目標3	
14	生活体験	自然の中での生きる力を育てる。		1看護の機能と役割を支える 仕組み	
15	まとめ	看護とは、人間とは、健康とはについて整理する。		1看護の機能と役割を支える 仕組み	
16	保健医療の場と看護活動	包括的保健医療の考え方、プライマリーヘルスケアなどについて学ぶ。		A看護活動の場	
17	保健医療の場と看護活動	看護職の働く場所とチーム医療などについて学ぶ。		a地域における看護活動、 b医療施設における看護活 動、c中間施設における看護 活動B継続看護	
18	継続看護	看護の継続性について学ぶ。		a施設内から在宅への継続、 b退院計画 および退院指導、c経時的に 変化に対する継続看護	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
19	保健医療福祉の連携	チーム医療、ゴールドプラン、訪問看護制度などについて学ぶ。	C 保健医療福祉の連携 a 他職種の役割 b 他職種との連携 E 専門職業団体の活動
20	看護職のこれから	専門看護師・認定看護師など看護の専門性について学ぶ。	a 専門職集団としての役割と機能、
21	専門職業団体の活動、看護行政、国際協力	看護の質の向上、看護の国際化などについて学ぶ。	F 看護行政 a 看護職員の確保、b 看護職員の質の向上、c 看護実践の質の向上、 国際協力 a 国際交流、b 国際機関への協力
22	看護提供システム	チームナーシング・プライマリーナーシングなどについて学ぶ。	D 看護管理 a 看護提供システム
23	リーダーシップ	リーダーシップとメンバーシップについて学ぶ。	b リーダーシップとメンバーシップ 目標1
24	看護倫理	看護師の倫理規定、インフォームドコンセントなどについて学ぶ。	E 看護倫理 a 職業倫理、b 看護師の倫理規定、c 患者の権利擁護
25	看護倫理	患者の権利、意思決定など事例を通して学習する。	
26	看護について考える	「看護をどう考えるか」インタビューや文献を通して、自己の考えをまとめる。	
27	看護について考える	「看護をどう考えるか」インタビューや文献を通して、自己の考えをまとめる。	
28	発表	発表	
29	発表	発表	
30	まとめ	看護学の基礎で学習したことのまとめをする。	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		看 護 理 論 の 基 礎	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	看護理論とは	看護理論とは			
2	ナイチンゲ-ル	フロ-レンス・ナイチンゲ-ルの看護理論			
3	ヘンダ-ソン	バ-ジニア・ヘンダ-ソンの看護理論			
4	ペプロウ	ヒルデガ-ド・E・ペプロウの看護理論			
5	オレム	ドロセア・E・オレムの看護論			
6	ロイ	シスタ-・カリスト・ロイの看護理論			
7	グル-ブ討議	看護理論を一つ選び、その枠組みと特徴についてグル-ブ討議する。			
8	グル-ブ討議	同上			
9	グル-ブ討議	同上			
10	グル-ブ討議	同上			
11	発表	グループ毎に発表する。			
12	発表	同上			
13	発表	同上			
14	まとめ	看護理論の補足			
15	まとめ	看護理論の補足			
テキスト					
参考書					



授 業 科 目 名		基 礎 看 護 技 術	担 当 教 員	金 古 さ つ き
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1 2	看護技術とは 環境	看護技術とは 人間をとりまく環境を理解し、環境調整時における看護師の役割を学ぶ。		目標2 2基本的日常生活 援助技術 A環境を整える技術 a環境の整備 b病床の整備
3	病床の整備	病床の意義・ベッドメ - キングの種類と方法などについて学ぶ。		b病床の整備
4	衣生活	衣生活の意義・リネン管理における看護師の役割について学ぶ。		E衣生活の援助技術 a衣生活を調整する能力 のアセスメントと援助方法、 b病衣の選択、c寝衣の交換
5	コミュニケーション	コミュニケーションの技法と看護への適応について学ぶ。		1共通技術項目 A人間関係を成立し発展 させるための技術 a コミュニケ - ション技術
6	コミュニケーション	ロ - ル・ブレイングについて学習し、人間関係の疑似体験をする。		2基本的日常生活援助技術
7	清潔	皮膚粘膜の解剖・生理の知識を基に清潔の意義・種類・方法などについて学ぶ。対象の生活習慣を把握し、清潔の適切な援助方法および褥瘡の予防を考える。		a 清潔行動のアセスメントと援助方法
8	清潔	全身清拭・部分浴・洗髪について演習し、評価する。		b 身体各部の清潔の援助方法 c 褥瘡の予防
9	清潔	口腔ケア・陰部ケアなどについて演習し、評価する		C 排泄の援助技術 a 排泄
10	排泄	排泄の生理と観察法について学ぶ。個人の排泄パターンを知り、それが変調をきたした際の援助法について考える。		行動のアセスメントと援助方法、 b 排泄物の観察、 c 自然な排泄を促す援助方法 d 床上排泄の援助方法、 e 浣腸、f 導尿
11	排泄	排泄障害をきたした際の援助技術について学ぶ。		疾病の成り立ちと健康の 促進 目標3
12	排泄	排泄の援助技術(便尿器の与え方・浣腸・導尿等)について演習し、評価する。		1, 3)栄養の摂取・吸収・ 代謝・排泄の障害 D 排泄機能の障害 a 便 の生成・排泄の異常 b 排泄 部位の変更による障害
13	包帯	対象者に適した材料で的確な包帯を装着する技法を習得する。		3診療に伴う技術 B 治療処置 h 包帯
14	まとめ	基礎看護技術 で学んだことの整理		
15		実技試験		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名		基 礎 看 護 技 術	担 当 教 員	保 坂 さ え 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	バイタルサインズ	診療時の看護師の役割を学ぶ。観察の技術として重要なバイタルサインズ(体温・脈拍・心拍・血圧・呼吸等)の意義について学ぶ。		目標2 3 診療に伴う技術 A 診査・検査 a 診察・検査時の時の看護師の役割、b 診療・検査を受ける対象者の心理 C 生命活動を支える技術 a 生命活動のアセスメントと援助方法、b 呼吸を楽にする姿勢、c 効率的な呼吸法、d 保温、e 電法、f 心肺蘇生術 g 止血法 B 治療・処置 a 治療・処置時の看護婦の役割、b 治療・処置時の対象者の心理、f 吸引、g 酸素吸入 1 共通基本技術 D 効率的で安楽な動きを作り出す技術 a ボディメカニクス、b 安楽な姿勢、 2 基本的日常生活援助技術 F 活動・運動の援助技術 a 活動・運動の能力のアセスメントと援助方法、b 体位変換、c 床上移動、d 車椅子への移動・移送、e 輸送車への移動・移送 f レクリエーション G 休息・睡眠の援助技術 a 休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法、b 安楽な休息・睡眠を促す方法、c 睡眠障害とその援助方法
2	バイタルサインズ	バイタルサインズの測定法と救急法について学ぶ。		
3	バイタルサインズ	バイタルサインズについて演習し、評価する。あわせて記録や評価のしかたについても学ぶ。救急法を学び、心肺蘇生法を演習する。		
4	電法	電法の基礎的知識と方法について学び、電法による変化についても演習する。		
5	吸引と吸入	吸引と吸入の方法と効果的な援助方法について学ぶ。		
6	姿勢と体位	安楽な体位と動作の経済性を高める技術について学ぶ。		
7	姿勢と体位	姿勢と体位・移動技術について演習する。		
8	活動と休息	睡眠の生理を学び個人の睡眠習慣を把握する。睡眠と安息の援助方法を考える。レクリエーションおよび身体運動についても学ぶ。		

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
9	身体各部の計測	身長・体重・胸囲・腹囲などの身体機能の計測の方法について学ぶ。	1共通基本技術 E 観察技術
10	栄養と食事	栄養と食事の生理的意味を理解するとともに、対象の食生活習慣を把握する。食事の適切な援助方法について学ぶ。 さまざまな栄養法の実際について学ぶ。	a 身体面のアセスメント 2基本的日常生活援助技術 B 食生活の援助技術 a 健康な食生活、b 栄養状態の評価、c 摂食行動のアセスメントと援助方法、d 病人の食事、e 経管栄養
11	与薬	薬物療法についての的確な知識と技術を習得し、看護師の役割について学ぶ	
12	与薬	輸液の準備と介助法、皮内注射・皮下注射・筋肉注射について演習する。	
13	検査、安全	検査時における看護婦の役割について学ぶ。 安全工学におけるフェイル・セイフの考え方を紹介し、医療における安全性について考える。感染予防では、手の衛生の3つの側面について学習する。	3診察に伴う技術 B 治療・処置 c 与薬 d 穿刺、e 洗浄、 A 診察・検査 c 検査時の看護
14	実技試験	実技試験	1共通基本技術 C 安全を守るための技術 a 感染予防、b 無菌操作、c 事故の防止
15			
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		基 礎 看 護 技 術	担 当 教 員	保 坂 さ え 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	共通技術とは	基礎看護技術における共通技術について学ぶ。		目標2	
2	カウンセリング	看護におけるカウンセリングの位置づけとその技法について学ぶ。 カウンセラーに求められる基本的態度およびリラクゼーションの方法について学ぶ。		1共通基本技術 B 人間の成長を促すための技術 c カウンセリング技術	
3	医療における死	民俗学からみた死、安楽死裁判を通しての死などから死について考える。 悲嘆のプロセスおよび死後の処置の方法について学ぶ。		a 相談・指導 b 教育	
4	健康教育	健康教育の歴史、教育診断的アプローチについて学ぶ。 健康教育における看護婦の役割について学び、糖尿病教育の例を紹介する。		E 観察の技術 a 身体面のアセスメント b 精神面のアセスメント	
5	観察	観察の技術、方法、用語と観察の優先順位、長所と欠点について学ぶ。		F 記録・報告 a 記録・報告の目的 b 記録の種類 c 記録・報告の条件	
6	観察	観察の方法を事例を通して学ぶ。バイタルサインの測定・評価につて演習する。			
7	記録	記録の重要性、記録の種類、記録上の注意について学ぶ。 記録の実際、管理、報告、審査等について学ぶ。			
8	記録	プロセスレコ - ドの方法を事例を通して学ぶ。			
9	事例展開	事例を通して看護の実際を学習する。			
10	事例展開	同上			
11					
12	発表	グループ毎に発表する。			
13	発表	同上			
14	まとめ	事例から学んだことの整理			
15	まとめ	共通技術で学んだことの整理			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		看 護 過 程 論	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	看護過程	看護過程を学習する意義について学ぶ。		目標1	
2	看護過程	看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。		2看護の展開の方法	
3	看護過程	問題解決法について学ぶ。			
4	看護過程	クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。			
5	看護過程	看護過程の概念の変遷について学ぶ。			
9	看護過程	看護診断について学ぶ。			
7	データ	主観的データ・客観的データについて学ぶ。		A 対象者の全体像の把握	
8	アセスメント	情報の分析について学ぶ。			
9	アセスメント	一次アセスメント・フォーカスアセスメントについて学ぶ		a 情報の収集と分析	
10	看護診断	看護診断過程について学ぶ。		b 問題の明確化	
11	看護診断	看護診断過程について学ぶ。		B 目標設定	
12	患者目標	患者目標の設定の仕方について学ぶ。		a 優先度の決定	
13	計画立案	計画立案について学ぶ。		b 目標達成の時期	
14	実施・評価	実施、評価について学ぶ。		C 計画	
15	まとめ	看護過程の一連の過程を復習する。		a 行動計画の立案	
				D 実施 a 手段の選択、b 対象者への説明と了解、c 看護の実施と対象者の反応の確認	
				E 評価 a 目標達成の評価、b 看護過程展開の評価、c 再計画	
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		在 宅 看 護 論 の 基 礎	担 当 教 員	菊 地 裕 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	在宅看護の概念	* 看護のなかでの在宅看護の位置づけを理解するとともに、在宅看護が求められる社会的背景や、役割を学ぶ。		目標 1-1 在宅看護の対象者 A. 在宅看護を必要とする人々 a: 疾病を持つ人と家族 b: 障害を持つ人と家族 c: 生活自体が困難で支援を要する人と家族	
2	地域看護と在宅看護	在宅看護の目的と役割、位置づけ		目標 1-2 看護の継続性 A. 施設と在宅を結ぶ看護の一貫性 a: 必要なときに必要な場でのケア提供 b: 生活や医療における看護の一貫性 B. 継続看護の体制 a: 継続看護を行う部署と情報の共有 b: 医療と福祉施設と地域における専門職、看護職との連携 C. 施設内看護と在宅看護の機能と相違の特徴	
3	在宅ケアの在宅看護	看護の中の在宅看護の位置づけについて		a: 看護の場による看護機能の特徴 b: 個々人の在宅生活に合わせた看護の工夫 D. 訪問計画 a: 訪問の目的 b: 訪問の時期・回数	
4	在宅看護の歴史	在宅ケアの中での在宅看護の位置づけについて		目標 1-3 在宅看護の特徴 A. 生活の場における看護 a: 本人と家族を単位とした看護 b: 本人と家族の生活スタイル・価値観 c: 生活設計に合わせた看護 B. 生活の自立支援 a: 自己役割の確立・存在の位置づけ b: インフォームド・コンセントと自己決定 c: セルフケア d: 家庭生活における自立支援の具体化 e: 権利擁護(アドボカシー)	
5	在宅看護の歴史	欧米における歴史について		C. 予測と予防 a: 疾病・病態の予測と予防 b: 生活問題の予測と予防 c: 介護力の確保と維持 D. 家族関係の調整 a: 家族関係の理解と家族への指導 b: 家族の健康支援 c: 家庭における物品の利用と工夫	
6	在宅看護の現状	日本における歴史について		E. チームケア a: チームケアの意義・目的 b: 他職種との協働 F. ケアマネジメント a: ケアマネジメントの意義・目的 b: ケアマネジメントにおける連携・調整 c: ニーズに合わせた社会資源の活用 G. 社会	
7	在宅看護の現状	高齢化社会と疾病構造について			
8	在宅看護の現状	家族構成の変化、高齢者の医療保健福祉施策 介護老人と家族介護			
9	在宅看護の場	行政・医療機関が行う訪問看護			
10	在宅看護の場	訪問看護ステーション、民間の訪問看護			
11	在宅における看護の特殊性	対象のライフサイクルに応じた看護の在宅における持続性			
12	施設看護と在宅看護	それぞれの特徴を比較する			

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
13 14 15	在宅看護の基本 在宅療養者の権利保障・まとめ 評価	在宅看護の機能、対象、展開  障害者のノーマライゼーションについて  *途中、在宅看護に関するトピックスを、グループワークで調べ、発表の場を設定したいと考えています。	<p>目標 1 - 3 在宅看護の特徴</p> <p>E. チームケア a: チームケアの意義・目的 b: 他職種との協働</p> <p>F. ケアマネジメント a: ケアマネジメントの意義・目的 b: ケアマネジメントにおける連携・調整 c: ニーズに合わせた社会資源の活用</p> <p>G. 社会資源の種類 a: 訪問サービス b: 通所サービス</p> <p>c: 入所・入院 d: 日常生活用具</p> <p>e: 緊急通報 f: 住宅改造 g: ボランティア</p> <p>目標 1 - 2 看護の継続性 B. 継続看護の体制 b: 医療と福祉施設と地域における専門職、看護職との連携 D. 訪問計画</p> <p>a: 訪問の目的</p> <p>目標 1 - 3 在宅看護の特徴 D. 家族関係の調整 a: 家族関係の理解と家族への指導 b: 家族の健康支援</p> <p>c: 家庭における物品の利用と工夫</p> <p>d: 介護方法の指導</p> <p>目標 1 - 2 看護の継続性 C. 施設内看護と在宅看護の機能と相違の特徴</p> <p>a: 看護の場による看護機能の特徴 b: 個々人の在宅生活に合わせた看護の工夫 D. 訪問計画 b: 訪問の時期・回数 c: 記録・報告・連絡調整 d: 評価</p> <p>目標 1 - 3 在宅看護の特徴</p> <p>B. 生活の自立支援 c: セルフケア</p> <p>d: 家庭生活における自立支援の具体化 C. 予測と予防 a: 疾病・病態の予測と予防 b: 生活問題の予測と予防 c: 介護力の確保と維持 B. 生活の自立支援 e: 権利擁護(アドボカシー)</p>
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名	在宅看護活動論	担 当 教 員	菊 地 裕 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	2 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	在宅看護活動とは	* 前期は主に、在宅看護を展開するための看護活動の基本的理解を図るとともに、家族支援と関係機関との連携を学ぶ。 1年次の概要復習(在宅看護の目的・役割等)	目標 1-1 在宅看護の対象者
2	在宅療養者と家族	家族の機能と変遷	A.在宅看護を必要とする人々
3	在宅療養者と家族	現在日本の家族	a:疾病を持つ人と家族
4	在宅療養者と家族	家族をとらえる視点	b:障害を持つ人と家族
5	在宅療養者と家族	介護の実態と家族支援	c:生活自体が困難で支援を要する人と家族
6	在宅療養者と家族	在宅療養者への虐待の実態	目標 1 - 2 看護の継続性
7	在宅看護と経済的側面	在宅療養の診療報酬体系、経済的負担	A.施設と在宅を結ぶ看護の一貫性
8	在宅看護と法規	保助看法、医療法、老人保健法、地域保健法	a:必要なときに必要な場でのケア提供
9	在宅ケアと法規	保健・医療・福祉関係機関の法的位置づけ	b:生活や医療における看護の一貫性
10	在宅ケアと職種	保健・医療・福祉関係職種と連携	B.継続看護の体制
11	在宅ケアシステム	在宅ケアの社会資源とシステム	a:継続看護を行う部署と情報の共有
12	在宅看護の場の構造	在宅療養者の生活の構造、要介護量	b:医療と福祉施設と地域における専門職、看護職との連携
13		家族の介護力	
14	在宅看護の場の構造	* 在宅看護に関する課題を取りあげグループワークで調査し、発表の場も設けたいと考えています。	目標 1 - 3 在宅看護の特徴
15	前半のまとめ 中間試験	* 後期は主に、在宅における看護過程の展開を中心にそのプロセスを学ぶ。  在宅看護における看護過程、看護計画の位置づけ アセスメント、基本的情報、内容の分析評価	A.生活の場における看護 a:本人と家族を単位とした看護 b:本人と家族の生活スタイル・価値観 c:生活設計に合わせた看護 B.生活の自立支援 a:自己役割の確立・存在の位置づけ b:インフォームド・コンセントと自己決定 c:セルフケア d:家庭生活における自立支援の具体化 e:権利擁護(アドボカシー)C.予測と予防 a:疾病・病態の予測と予防 b:生活問題の予測と予防
16	訪問看護過程の展開	事例を用いて演習	
17	訪問看護過程の展開	事例を用いて演習	
18	訪問看護過程の展開	事例を用いて演習	
19	訪問看護過程の展開	看護計画の立案	
20	訪問看護過程の展開	看護計画の立案	
21	訪問看護過程の展開	介護保険法の導入の背景	
22	訪問看護過程の展開		
23	訪問看護過程の展開	介護保険法下における現状と在宅看護の役割	
24	訪問看護過程の展開		
	訪問看護過程の展開		
	訪問看護過程の展開		
	介護保険法と在宅看護		
	介護保険法と在宅看護		



回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
25 26 27 28 29 30	在宅ケアチーム 在宅ケアチーム ケアマネージメント ケアマネージメント まとめ 試験	在宅ケアチームの支援の実際 在宅ケアチームの支援の実際 ケアマネージャーの法的位置づけ、機能、役について ケアマネージャーの法的位置づけ、機能、役について 看護過程の展開は、実際に3年の臨地実習で使用する看護記録様式を实际用いてそのプロセスを学びます。	c:介護力の確保と維持 D.家族関係の調整 a:家族関係の理解と家族への指導 b:家族の健康支援 c:家庭における物品の利用と工夫 d:介護方法の指導 E.チームケア a:チームケアの意義・目的 b:他職種との協働 F.ケアマネジメント a:ケアマネジメントの意義・目的 b:ケアマネジメントにおける連携・調整 c:ニーズに合わせた社会資源の活用 G.社会資源の種類 a:訪問サービス b:通所サービス c:入所・入院 d:日常生活用具 e:緊急通報 f:住宅改造 g:ボランティア
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		在宅看護活動論	担 当 教 員	菊 地 裕 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	在宅看護活動とは	*在宅看護に必要な基本的な看護技術を習得するとともに、現場の実態に臨機応変に対応できる実践力を身につける。  在宅看護活動の概念(目的・役割等)		目標 1-1 在宅看護の対象者 A.在宅看護を必要とする人々 a:疾病を持つ人と家族 b:障害を持つ人と家族 c:生活自体が困難で支援を要する人と家族 目標 1 - 2 看護の継続性 D.訪問計画 a:訪問の目的 b:訪問の時期・回数 c : 記録・報告・連絡調整 d : 評価	
2	訪問看護の準備	必要物品、服装等について、		目標 1 - 3 在宅看護の特徴 A.生活の場における看護 a:本人と家族を単位とした看護 b:本人と家族の生活スタイル・価値観 c:生活設計に合わせた看護	
3	バイタルサインチェック	病状観察、情報収集について		D.家族関係の調整 a:家族関係の理解と家族への指導 b:家族の健康支援 c:家庭における物品の利用と工夫 d : 介護方法の指導	
4	在宅看護の面接と相談 住・衣生活の援助	在宅における面接・相談場面の展開		目標 2-2 在宅療養者の状態別看護 D.ターミナル患者 a:苦痛の緩和と安楽への援助 b:死の徴候の観察・評価 c:医師との連携 d:家族の予期的悲嘆 目標 2-1 在宅看護における生活支援の方法と技術 A.コミュニケーション a:コミュニケーション意欲 b:コミュニケーション手段の開発と家族への指導 c:人間関係の調整 D.清潔 a:感染の予防 b:入浴サービスの活用 c:清潔行動に障害がある人への自立の援助と工夫 d:家庭における清潔保持のための家族への指導	
5		生活環境や生活スタイルに応じた援助方法			
6	清潔の援助	清潔ケアについて			

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
7	食生活の援助	食事介助や食生活環境の整備について	B.食 a:食品の入手と調理 b:配食サービスの活用 c:食事摂取能力の判断と食事内容・摂取方法の工夫 d:家族と療養者との献立の工夫と楽しみ C.排泄 a:排泄環境の調節 b:排泄障害がある人への自立の援助と工夫 c:尿路感染の予防と指導 d:排泄に伴う心理的負担と家族への指導 E.移動・運動 a:移動・運動時の安全の確保 b:移動動作に障害がある人への自立の援助と工夫 c:閉じこもりの防止と家族への指導
8	排泄の援助	排泄ケア、管理について	F.服薬 a:服薬状況の把握 b:副作用の早期発見に対する本人と家族への指導 c:療養者に対する服薬方法の工夫と指導 d:医師と薬剤師との連携
9	服薬管理・受診の援助	服薬管理について	目標 2-2 在宅療養者の状態別看護
10	リハビリテーションの援助	リハビリテーションの特徴と援助について	A.寝たきり a:合併症の予防と観察の指導 b:生活リズムの調整とADL・IADLの拡大 c:生き甲斐・生活意欲の刺激
11	特殊な在宅看護技術 高齢者	在宅酸素療法、排泄障害、経管栄養、CAPD法等	B.痴呆性老人 a:外出時における安全 b:在宅での問題行動への対処 c:睡眠への援助、薬のコントロール
12	難病者	看護の特徴と留意点及び家族支援等について	C.難病患者 a:医療依存度のアセスメント b:医療機器の使用の指導 c:急性憎悪の早期発見と対応 d:チーム医療・調整 E.独居の生活自立困難者 a:社会・日常生活に対する自立度のアセスメント b:人間関係の拡がりのアセスメントと調整 c:社会資源の活用の仕方と指導
13	まとめ	看護の特徴と留意点及び家族支援等について	F.介護負担者
14	評価		a:家族の疲労状態のアセスメント b:社会資源の活用 c:本人・家族の意向の確認
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		在 宅 看 護 論 特 講	担 当 教 員	菊 地 裕 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2	学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選	択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容			国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>*在宅看護、ケア、介護に関する今日的话题を取りあげ、一緒に考え学んでいきたいと思ひます。特に学生自身の関心のある事柄について積極的に取りあげたいと考えています。</p> <p>例えば、「ホスピス」「高齢者虐待」等</p>			
1	「在宅終末ケア、緩和ケア、ホスピス」を中心に ～ 回 「高齢者虐待を中心に」 ～ 回  まとめ・レポート	緩和ケア・ホスピスを中心に			
2		"			
3		"			
4		高齢者虐待を中心に			
5		"			
6		"			
7		"			
		*課題についてのレポートを作成します。			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名	成人看護学の基礎	担 当 教 員	矢 嶋 和 江
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	1 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4 ~ 7 8 9	成人看護の意義  成人期とは    成人各期の特徴	成人看護の目的・位置づけを知り、その意義を学ぶ ライフサイクルからみた成人期 成長・発達概念と成人期について学ぶ。 成人期にある人を理解するために発達理論について 理解する。  青年期、壮年期、向老期の身体的、精神的、社会的特 徴について各視点から考え理解する。 GW：小グループに分かれて学習・発表	目標 1 - 1 成人期にある対象の特徴 A 成長発達からみた特徴 B 生活状況からみた成人 の特徴 a.家庭生活の多様な側面 b.労働・職業生活 c.性生活のあり方と要因 d.生活リズム e.趣味・嗜好・レク・生き がいの多様なあり方 f.生活習慣ライフスタイル
10 11 12 ~ 13 14	健康を保つメカニズ ム  パート： (成人保健)	保健動向と保健問題 人口の動向、疾病状況、死亡動向などの健康指 標から成人の特徴及び生活の中に見る成人の健 康問題を総括的に理解する。 成人期の健康問題 成人期にある人が健康を障害される事によって 受ける問題とその反応への影響要因について学 び、健康を障害された成人期にある人を理解す る指針とする。 1 生活習慣病の予防 2 勤労者の生活と健康問題 3 女性の生活と健康問題 4 成人保健と性 5 成人期の発達の、状況的危機とその対処機制	目標 1 - 2 成人各期に特徴的な健康 問題 A 生活習慣に関連する健 康障害 職業に関連する健康障害 C 成人の生活ストレスに 関連する健康障害 D 更年期にみられる健康 障害 E 性生活に伴う健康障害
15	健康を保つメカニズ ム  パート： (成人看護の方法)  まとめ	慢性疾患や障害を持って生活する人々は、自己管理や 新たな生活技術を身につけ自立性を回復してゆく必 要がある。成人期は医学の発達と共に平均寿命の伸び などから成人看護に関連した多くの課題が存在し、基 本的な看護援助に加え、看護機能の活動領域、活動形 態は拡大している。ここでは継続看護と社会資源の活 用などについても概説する。 ・慢性疾患患者の看護方法では、予防や自己管理 の重要性に鑑み健康に対する信念、価値観を反映す る保健医療行動の理論について学ぶ。 ・リハビリテーション看護では、障害や疾病による能 力障害を補い、ハンディキャップを軽減し て行く過程での看護の関わり方を学ぶ ・がん患者への援助ではがん治療の現状と問題点を理 解し、終末期のケアについて学ぶ。	目標 2 - 1 E 社会復帰の看護 a.障害の理解と受容 b.自立性再獲得への看護 c.家族への援助 F 健康障害の慢性期看護 a.自己管理の指導 b.家族への援助 c.サポート体制の確立 G 終末期の看護 a.終末期の苦痛と QOL b.鎮痛剤の使用と効果 c. 家族への看護
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		急性期の成人看護学	担 当 教 員	北 林 司	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	通 年	
単 位 ( コ マ 数 )		3 単 位 ( 4 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	【前期】 周手術期の看護	周手術期看護の目的を理解する。 手術療法を受ける患者を理解する。 インフォームド・コンセントの概念を理解する。		目標 2 - 1 健康レベルに応じた看護 D.周手術期の看護	
2	手術前の準備と看護	手術を受ける対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 入院から手術までの一連の検査・処置および看護を理解する。		a.手術のインフォームド・コンセントに関わる看護 b.手術前の準備の種類と看護	
3 ~ 4	麻酔と看護	各種麻酔の方法と適応を理解する。 麻酔を受ける対象への看護を理解する。		目標 3 - 1 呼吸・循環の障害に応じた看護 A 換気障害時の看護 f.気管内挿管時の看護 g.気管切開に伴う看護 h.人工呼吸器装着時の看護	
5 ~ 6	手術室における看護	手術室看護師の役割を理解する。 手術室の構造と設備を理解する。 手術と看護の実際を理解する。 回復室における看護を理解する。		目標 2-1 健康レベルに応じた看護 D.周手術期の看護 c.手術中の観察と看護 d.手術中の環境管理	
7 ~ 8	模擬手術(演習)	手術に用いられる器材の名称と用途を理解する。 手洗いとガウンテクニックを理解する。		e.手術直後の苦痛と覚醒状況の観察と看護	
9	手術後の合併症と回復への援助	手術侵襲が生体に及ぼす影響を理解する。 術後に起こりうる合併症を理解する。 手術後の看護の実際を理解する。 手術を受ける患者と家族への看護を理解する。 術後回復期における看護を理解する。		f.術後合併症の予防と早期発見・回復への看護 g.家族への看護 E.社会復帰期の看護 a.障害への理解・受容への看護 b.日常生活活動の自立性再獲得への看護 c.合併症・事故の予防への看護 d.家族の介護への援助	
10	肺切除術を受ける患者の看護	事例を通して肺切除術を受ける患者の看護を理解する。		目標 3 - 1 呼吸・循環の障害に応じた看護 i.肺切除後の合併症の予防と看護 B.循環障害時の看護 g.開心術後の合併症の予防と看護	
11	開心術を受ける患者の看護	事例を通して開心術を受ける患者の看護を理解する。			

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
12 ～ 18	栄養代謝の障害に応じた看護	<p>食欲不振の原因と看護を理解する。</p> <p>咀嚼・嚥下障害の原因に応じた栄養摂取障害を理解する。</p> <p>胃の機能低下の種類に応じた栄養摂取指導を理解する。</p> <p>胆汁の分泌障害時の栄養摂取指導を理解する。</p> <p>腸の切除による栄養障害時の栄養摂取指導を理解する。</p> <p>通過障害時の栄養摂取指導を理解する。</p> <p>事例を通して胃切除術を受ける患者の看護を理解する。</p> <p>下痢・便秘の原因に応じた看護を理解する。</p> <p>ストーマの目的と種類を理解する。</p> <p>ストーマ管理と指導方法を理解する。</p>	<p>目標 3-2 栄養代謝の障害に応じた看護 A. 摂食障害時の看護 a. 食欲不振の原因と看護 b. 咀嚼・嚥下障害の原因に応じた看護 B. 消化・吸収障害時の看護 a. 胃の機能低下の種類に応じた看護 b. 胆汁の分泌障害時の栄養摂取指導 c. 腸の切除による栄養障害時の栄養摂取指導 d. 通過障害時の栄養摂取指導 C. 排便時の看護 a. 下痢・便秘の原因に応じた看護 b. 人工肛門造設術後の合併症の予防と看護 c. 人工肛門造設による排便の自己管理指導</p>
19 ～ 20	皮膚の障害に応じた看護	<p>皮膚の障害と生活への影響を理解する。</p> <p>主な症状に対する看護を理解する。</p>	<p>目標 3-3 防衛機能の障害に応じた看護 C. 皮膚の障害時の看護 a. 皮膚の状態の程度と生活への影響の把握 b. 皮膚の障害の程度に応じた感染予防 c. 皮膚の障害の原因に応じた皮膚保護</p>
21 ～ 24	泌尿器疾患患者の看護	<p>代表的な泌尿器疾患と検査・手術療法を理解する。</p> <p>主要な症状に対する看護を理解する。</p> <p>経尿道的前立腺切除術を受ける患者の看護を理解する。</p> <p>男性の生殖機能障害と生活への影響を理解する。</p>	<p>目標 3-8 性・生殖機能の障害に応じた看護 A. 男性の生殖機能障害児の看護 a. 男性生殖機能障害の生活への影響 b. 生殖機能の治療に伴う看護</p>
25 ～ 30	運動器疾患患者の看護	<p>運動器系の機能・形態を理解する。</p> <p>代表的な運動器系疾患と検査・手術療法を理解する。</p> <p>姿勢保持・移動機能障害および生活への影響が理解できる。</p> <p>安全・安楽な歩行方法が理解できる。</p> <p>各種歩行補助具の使用方法が理解できる。</p> <p>上肢機能障害および生活への影響が理解できる。</p>	<p>目標 3-6 運動機能の障害に応じた看護 A. 骨折時の看護 a. 効果的な整復・固定への看護 b. 整復・固定治療による苦痛の緩和 c. 整復・固定にとまなう二次的障害の早期発見と予防 d. 治療によるADL制限の把握と看護 e. 非骨折部位の機能保持方法と指導 B. 姿勢の保持、移動機能の障害時の看護 a. 安全で苦痛の少ない保護的歩行の方法と指導 b. 運動麻痺による二次的障害・事故の予防 c. 歩行訓練・治療過程への看護 d. 車椅子・杖・歩行器の選択と使用方法の看護 C. 上肢機能の障害時の看護 a. 生活障害の程度と把握 b. 自助具の選択と使用方法の指導 c. 安全で苦痛の少ない保護的作業方法と指導</p>

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
1 ～ 15	【後期】 感覚機能の障害に応じた看護	<p>各種自助具の使用方法が理解できる。 各種人工関節について理解できる。 事例を通して骨接合術を受ける患者の看護が理解できる。 脳神経系の機能・形態を理解する。 代表的な脳神経系疾患と検査・手術療法を理解する。 脳神経系疾患をもつ患者の周手術期の看護を理解する。</p> <p>言語機能障害の原因と生活への影響を理解する。 言語機能障害に対応した生活指導が理解できる。 視力障害時の原因と生活への影響を理解する。 眼の手術を受ける患者の看護を理解する。</p> <p>聴力障害の原因と生活への影響を理解する。 耳の手術を受ける患者の看護が理解できる。</p>	<p>目標 3-5 感覚機能の障害に応じた看護 A.意識障害時の看護 a.意識障害の原因と程度および生活障害・事故の可能性の把握 b.意識障害の程度に応じた事故の予防への看護 c.脳の手術後の合併症の予防への看護 d.意識障害および手術後の生活自立への看護</p> <p>目標 3-7 言語機能の障害に応じた看護 A.言語機能障害時の看護 a.言語機能障害の原因と程度および生活への影響の把握 b.言語機能障害の種類と程度に対応した生活指導</p> <p>B.視力障害時の看護 a.視力障害の原因と程度および生活への影響の把握 b.視力障害時の種類に応じた事故の予防と生活指導 c.眼の手術後の合併症の予防への看護 d.視力障害時および手術後の生活自立への看護 C.聴力障害時の看護 a.聴力障害の原因と程度および生活への影響の把握 b.聴力障害の種類に応じた事故の予防と生活指導 c.耳の手術後の合併症の予防への看護 d.聴力障害時および手術後の生活自立への看護</p>
	テキスト		
	参考書		



授 業 科 目 名		慢性期の成人看護学	担 当 教 員	秋 山 美 加	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	通 年	
単 位 ( コ マ 数 )		3 単 位 ( 4 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	慢性期にある人の特徴	<p>・慢性疾患及び慢性期の健康障害の特徴を学び、慢性期にある人の心身・生活・家族への影響を理解する。</p> <p>・セルフケアの概念及びセルフケアに影響する要因を学び、セルフケア能力のアセスメント、疾患需要・症状のコントロールへの援助、健康教育などの看護の特徴を学ぶ。</p>		<p>目標 1-2 成人期に特徴的な健康問題 A.生活習慣に関連する健康障害 a.生活習慣病の種類と発生状況 c.生活習慣病の経過とセルフケア</p>	
2	慢性期にある人の看護の特徴			<p>目標 2-1 健康レベルに応じた看護 F.健康障害の慢性期の看護 a.疾病の自己管理指導</p>	
【各機能障害を持つ患者の看護】					
3 ~ 6	1) 呼吸機能を障害された患者の看護	<p>気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の特徴、観察・看護のポイントを学び、セルフケアのための生活指導の方法を学ぶ。</p> <p>呼吸機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学び、看護援助の実際、生活指導の方法を学ぶ。</p>		<p>目標 3-1 呼吸・循環の障害に応じた看護 A.換気障害時の看護 a.窒息原因の発見とそれに応じた気道確保法の把握 b.換気障害の原因と程度の把握 c.排痰への看護 d.喘息時の看護と発作予防のための生活指導 e.酸素療法の方法と看護 B.循環障害時の看護</p>	
7 ~ 11	2) 循環機能を障害された患者の看護	<p>心不全の特徴、観察・看護のポイントを学び慢性心不全患者への生活指導の方法を学ぶ。</p> <p>虚血性心疾患、心筋症、不整脈、高血圧などによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学び、看護援助の実際、生活指導の方法を学ぶ。</p>		<p>A.心筋収縮障害による急性循環不全の状態の把握 b.心拍出量低下時の看護 c.心筋収縮障害時の生活活動拡大の看護 d.慢性循環不全状態の把握 e.慢性循環不全時の生活指導 f.心臓カテーテルによる検査・治療時の看護</p>	
12 ~ 15	3) 造血機能を障害された患者の看護	<p>造血機能を障害された患者(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血など)の観察、援助方法の実際を学ぶ。</p> <p>化学療法・造血幹細胞移植を受ける患者の身体・心理面及び生活への影響を学び、観察・援助・指導のポイントを学ぶ。 *事例学習</p>		<p>h.血圧コントロールのための生活指導 i.末梢血管循環不全時の程度の把握と生活指導 C.貧血時の看護 a.貧血の程度と影響の把握 b.出血性貧血時の看護 c.造血過程の障害に応じた生活指導 d.貧血の程度に応じた看護</p>	
16 ~ 19	4) 肝・胆道・膵臓を障害された患者の看護	<p>肝炎、肝硬変に罹患したことによる心身の変化及び生活への影響を知る。観察・看護のポイントを学び、自己管理のための看護援助の実際、生活指導の方法を学ぶ。</p> <p>膵炎の特徴、観察・看護のポイントを学び、看護援助の実際、生活指導の方法を学ぶ。</p>		<p>目標 3-4 内部環境調節機能障害に応じた看護 C.体液の調節障害時の看護 A.体液の量及び浸透圧の調節障害の状態と影響の把握</p>	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
20 ～ 23	5)腎臓機能を障害された患者の看護	急性及び慢性腎不全の特徴、観察・看護のポイントを学び、腎不全患者への生活指導の方法を学ぶ。血液浄化療法導入患者への看護援助及び社会復帰に向けての援助・生活指導の方法を学ぶ。腎機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学び、看護援助の実際生活指導の方法を学ぶ。	b.水分・ナトリウムの摂取調節への看護 c.腎の窒素成分排泄機能障害の状態と影響の把握 d.腎機能障害時の生活指導 e.血液透析・腹膜透析時の生活指導と看護
24 ～ 27	6)内分泌機能を障害された患者の看護	甲状腺機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学び、看護援助の実際、生活指導の方法を学ぶ。 副腎皮質機能、下垂体機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学び、看護援助の実際、生活指導の方法を学ぶ。	A.内分泌機能障害時の看護 A.甲状腺機能と生活への影響の把握と看護 b.下垂体機能と生活への影響の把握と看護 c.副腎皮質機能と生活への影響の把握と看護
28 ～ 31	7)代謝機能を障害された患者の看護	糖尿病の分類、特徴、合併症、治療法などについて学び、心身の変化及び生活への影響を知る。高脂血症、肥満症患者の心身の変化、生活への影響を知る。 患者のライフスタイルの把握・アセスメントの方法を学び、自己管理指導への援助、指導方法の実際を学ぶ。 *事例学習	目標 3-2 E.糖代謝障害時の看護 a.糖代謝障害状態の把握と看護 b.糖代謝障害による二次的障害の把握と看護 c.糖尿病の自己管理指導 d.糖尿病のインスリン療法に関する指導 F.蛋白・脂質の代謝障害時の看護 a.代謝障害の種類に応じた生活指導
32 ～ 35	8)免疫機能を障害された患者の看護	膠原病に罹患したことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。患者のライフスタイル、疾病の状態に合わせた看護援助、生活指導の方法を理解する。 アレルギー性疾患患者の日常生活の自立、セルフケア行動、共存のための援助の方法を学ぶ。	目標 3-3 防衛機能障害に応じた看護 A.免疫力障害時の看護 a.免疫力低下の状態の把握 b.免疫力に対応した感染予防の方法と指導 c.免疫抑制療法時の看護 B.自己免疫による障害時の看護 a.自己免疫の状態と身体臓器への影響の把握 b.自己免疫疾患の悪化予防のための生活指導 c.自己免疫による臓器の障害に対応した生活指導
36 ～ 38	9)女性生殖器を障害された患者の看護	生殖器に起こる疾患(子宮筋腫、子宮癌など)に罹患した患者への援助、手術後の看護について学ぶ。乳房切除術を受ける患者の身体・心理面への影響を知り援助の実際を学ぶ。 更年期障害を持つ患者への援助を学ぶ。 *進行状況に応じ、1～2回中間試験	目標 3-8 性・生殖機能の障害に応じた看護
39 40		成人期のがん疾患の動向と予防・発見システム、がん疾患が及ぼす身体的、心理的社会的影響と看護の特徴を学ぶ。	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
41 ～ 44	<b>【がん患者の看護】</b> 1)がんの特殊性とがん患者の理解 2)がん治療を受ける患者が持つ問題と看護 3)がんと共に生きる 4)終末期にある患者の持つ問題と看護 5)終末期における家族への援助	成人期のがん疾患の動向と予防・発見システム、がん疾患が及ぼす身体的、心理的社会的影響と看護の特徴を学ぶ。 化学療法、放射線療法などの治療、リハビリテーションを受ける患者の看護を学ぶ。 「告知の問題」、がんと共生のプロセス、その援助、家族が抱える問題、患者家族を支えるためのソーシャルサポートなどについて学ぶ。 終末期の身体的苦痛とその援助、精神的・社会的苦痛とその援助について学ぶ。 終末期にある患者の家族ニーズ、死別の受容プロセスなどを学び、家族への支援システムを理解する。 *事例学習、グループワークなど	目標2-1 健康レベルに応じた看護 G.終末期の看護 a.終末期の苦痛とQOLの関係 b.緩和ケア c.鎮痛剤の使用と効果判定 d.家族への看護 e.終末期看護の体制
45		*まとめ	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		成 人 看 護 学 特 講	担 当 教 員	矢 嶋 和 江	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	災害概論	災害と災害管理 災害に関する基礎的知識 災害管理とその様相 災害による援助ニーズの経時的変化 D I G (災害時の避難シミュレーション)		目標 3 - 1 G 国際協力 a.国際協力 b.国際機関への協力	
2		多死傷者の管理について			
3		トリアージとは レスキュー(救出)とタッキング(負傷者分類)の原則 どこでトリアージするのか 机上シミュレーション			
4	災害看護とは	災害と看護職の役割 災害看護とは 災害時看護の役割と責任			
5	病院施設の災害管理	施設の災害被害軽減対策 災害対応マニュアルと訓練 備蓄について 入院患者管理 多死傷受入れの為の準備 看護職員管理と医療ボランティアの配置			
6	災害時の保健問題と保健計画	災害時被災者の看護問題 被災者に起こりえる問題、要求について 保健問題の初期計画と保健プログラム 避難センターにおける保健活動			
7	災害のもたらす心理的衝撃とその対策	被災者と援助者のための心のケア 被災者はどのようにして災害から立ち直るか 悲嘆の過程 心理的介入の原則			
8	まとめ	救援者のストレス対策			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		老年看護学の基礎	担 当 教 員	山 田 ノ リ 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 2	1 老年期の理解	A ライフサイクルからの老年期の理解		目標：老年者の特徴とその生活について理解を問う 1 老年期の理解 A ライフサイクルから老年期の理解 a 老年期の定義 b 老年期の位置づけ c 加齢と老化	
		B 人口学的指標から r 老年期の理解		B 人口学的指標から r 老年期の理解 a 高齢者人口の推移 b 前・後期高齢者人口の比較 c 性差 d 地域格差	
		C 健康指標からの老年期の理解		C 健康指標からの老年期の理解 a 疾病構造と有病率・有訴者率 b 受療行動・受療の動向 c 要介護老人の出現率と動向 d 死亡率、死因、死亡場所	
		D 生活の視点からの老年期の理解		D 生活の視点からの老年期の理解 a 生活時間と生活習慣 b 役割と社会活動・余暇活動 c 家族・世帯構成 d 住宅と環境 e 就労・雇用 f 収入・生計	
3 4	2 老年期を生きる人々の特徴	A 老年期の発達と成熟		2 老年期を生きる人々の特徴 A 老年期の発達と成熟 a 老年期における発達と成熟の意味 b 老年期の発達課題 c 人格と尊厳 d 喪失 e 高齢期の性	
		B 高齢者の多様化		B 高齢者の多様化 a 高齢者の人生と経験の意味 b 価値観の多様性 c 身体的状態の多様性 d 生活習慣・生活様式の多様性	
5 6 7 8	3 加齢に伴う変化	A 加齢に伴う変化の特徴		3 加齢に伴う変化 A 加齢に伴う変化の特徴 a 回復力の低下 b 予備力の低下 c 防衛力の低下 d 適応力の低下	

回	講義題目	教科	内容	国家試験出題基準
9		B 身体的機能の変化		B 身体的機能の変化 a 細胞数の減少 b 筋力・筋肉の弾性の低下 c 体内水分量の変化 d 神経伝達速度の低下 e 感覚の鈍磨 f 免疫能の弱体化 g ホメオスタシス機能の制限 h 復元反応の遅延
		C 精神的機能の変化		C 精神的機能の変化 a 知的能力の変化 b 情緒的側面の変化 c 人格の変化
		D 社会的機能の変化		D 社会的機能の変化 a 社会的役割の変化・喪失 b 家庭内役割の変化・喪失 c 経済力の変化
10	4 老年期を生きる人々の健康	A 高齢者にとっての健康		4 老年期を生きる人々の健康 A 高齢者にとっての健康 a 老年期の健康の捉え方 b 生活習慣と健康 c 生きがいと生活の満足感
		B 高齢者の健康の特徴		B 高齢者の健康の特徴 a 健康の危うさ b 慢性化と複合化
11	5 高齢者を取りまく社会	A 高齢者と家族		5 高齢者を取りまく社会 A 高齢者と家族 a 高齢者と家族のライフサイクル b 家族構成の変化 c 家族形態の変遷 d 高齢者と家族の関係 e 家族介護の特徴と問題
12		B 高齢者と社会システム		B 高齢者と社会システム a 高齢者の社会的イメージ b 高齢者サービス c 高齢者サポートシステム d ノーマライゼーション
		c 社会資源の活用		c 社会資源の活用 a フォーマルな資源 b インフォーマルな遊源
13	6 保健・医療・福祉	A 各制度の成り立ち		6 保健・医療・福祉制度と看護の役割 A 各制度の成り立ち a 成り立ちの経緯と統合
14	制度と看護の役割	B 介護療養型医療施設		B 介護療養型医療施設 a 制度的特徴 b 看護の役割
		C 介護老人保健施設		C 介護老人保健施設 a 制度的特徴 b 看護の役割
		D 介護老人福祉施設		D 介護老人保健施設 a 制度的特徴 b 看護の役割
		E チームアプローチ		E チームアプローチ a 関連職種・他職種との連携
15	1 まとめ			
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名	老年の健康障害と看護	担 当 教 員	山 田 ノ リ 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	2 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2	1 老年看護学の基本的な考え方	A 老年看護活動の特性  B 老年看護活動の場  C 老年看護における倫理的課題	a 予防活動の重視 b 疾病回復への介護 c 日常生活能力の維持・改善 d 安楽な生活への看護 e 人生の終結への看護 f ケアの調整 g アドボカシー h 在宅生活への看護 I 家族との協働 j 学際的アプローチ  a 医療施設 b 保健施設 c 福祉施設 d 地域・在宅サービス提供機関  a 尊敬 b 自立と自己決定 c 資源の公平な分配 d 高齢者の差別と虐待
3 4	2 老年看護の基本的技術	A 高齢者の観察  B 高齢者とのコミュニケーション	a 加齢変化の正常と異常 b 生活障害の程度と異常 c 訴えと身体徴候  a 加齢とコミュニケーション能力 b 高齢者とのコミュニケーションの方法
5 6 7 8 9 10 11	3 高齢者の健康を支える看護	A 高齢者の健康の維持  B 慢性的な自覚症状に対する観察評価と自己コントロール C 事故の予防と救急への対応	a 食生活と栄養 b 運動とレクリエーション c 休息と睡眠 d 排泄 e 身だしなみ・おしゃれ f 性生活 g 住居環境 h 対人関係と社会的活動  a 痛み b かゆみ c 不眠 d しびれ e 冷え f 便秘  a 転倒・転落 b 火傷 c 窒息 d 急変・救急儀の対応
12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23	4 障害をもつ高齢者の看護	A 視覚の障害  B 聴覚の障害  C コミュニケーションの障害  D 排泄コントロールの障害	a 視覚障害の程度と生活への影響評価 b 住環境の整備 c 眼鏡の適用と管理 d 白内障の治療時の看護  a 聴覚障害の程度と生活への影響の評価 b 会話の方法 c 補聴器の適応と管理  a コミュニケーション障害の原因の把握と生活への影響の評価 b 他者との交流の促進への看護  a 排泄コントロール障害の原因の把握と生活への影響の評価 b 排泄コントロー

回	講義題目	教科	内容	国家試験出題基準
24 25 26	5 治療を受ける高齢者の看護	A 薬物療法	E 日常生活動作の障害 F 長期臥床状態 G 認知障害・痴呆 H 骨粗しょう症	ルに対する看護 a 歩行動作 b 食事動作 c 排泄動作 d 更衣動作 e 入浴動作 f 自助具の選択・整備 g 動作再獲得のための看護 h 残存機能を引き出す援助方法 a 長期臥床状態の原因の把握 b 生活機能障害の程度と残存機能の評価 c リハビリテーションに向けた看護 d 合併症の予防 a 痴呆の種類評価方法 b 物忘れと記憶障害 c 見当識障害 d 精神症状 e コミュニケーションの方法 f 日常生活遂行能力 g 情緒安定を図る看護 h 進行遅延への積極的アプローチ a 骨粗しょう症の程度と生活への影響の評価 b 合併症の予防
27 28 29	6 高齢者の終末期の看護	A 終末期にある高齢者の看護	B 手術 C 受療形態に応じた看護	a 疾患の重複による多剤投与 b 加齢と薬物の副作用 c 副作用を招きやすい薬物 d 薬物副作用の徴候の観察・評価 e 薬物副作用の予防 f 服薬過誤とその予防 a 手術に関する説明と了解 b 術前の指導と状態管理 c 早期離床の重要性 d 合併症の予防 a 入院 b 外来
30	7 まとめ	B 看取り終えた家族への看護		a 高齢者の死の捉え方 b 死の迎え方に関する意向への理解 c 看取りに対する合意の形成 d 死の受容への看護 e 死の徴候の観察・評価 f 苦痛の緩和と安楽への看護 g 臨死期の対応 h 家族の参加と家族への看護 a 家族の心理の理解と生活の再構成への看護
	テキスト			
	参考書			



授 業 科 目 名		老年の健康障害と看護	担 当 教 員	山 田 ノ リ 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	痴呆症と脳神経疾患	痴呆症の症状、原因、診断、治療、看護。 脳血管障害、パーキンソン病、小脳変性症、筋萎縮性側面硬化症、など。		以下「疾」=「疾病の成り立ちと回復の促進」。疾-目標 3-1-1) A 脳の機能低下を起こす疾病。	
2	精神障害と循環器系の疾患	うつ状態(うつ病)。意識障害。老年者精神障害の看護。虚血性心疾患。心不全。不整脈。高血圧。動脈硬化症。老年者循環器疾患の看護。		同上-1) C 精神の発達障害や知覚の歪みによる疾病。2) A b 循環不全を起こす疾病。	
3	消化器系の疾患	胃・十二指腸潰瘍。胃癌。大腸癌。食道癌。胆石症。膵炎。ウイルス肝炎。肝硬変。肝癌。老年者消化器疾患の看護。		同上-3) B 消化管粘膜の障害と通過障害。C 肝・胆・膵の機能障害。	
4	呼吸系の疾患	老人性肺炎。老年者肺結核。閉塞性肺疾患。拘束性肺疾患。肺癌。老年者呼吸器疾患の看護。		同上-2) A 換気不全を起こす疾病。	
5	代謝性疾患と内分泌疾患	糖尿病。痛風。肥満症とやせ症。甲状腺疾患。副甲状腺疾患。老年者代謝疾患・内分泌疾患の看護。		同上-4) A 内分泌機能の低下・亢進。	
6	膠原病と血液疾患	慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎、など。貧血、白血病、悪性リンパ腫、など。		疾-目標 2-2-E 免疫および自己免疫疾患患者への看護の視点。	
7	腎・泌尿器の疾患	老年者の膠原病、血液疾患の看護。 腎不全。糸球体腎炎。薬剤性腎障害。腎尿路感染症など。老年者の腎・泌尿器疾患の看護。		疾-目標 3-4) B 体液の調節障害。	
8	運動器と皮膚の疾患	大腿骨頸部骨折。変形性膝関節症。椎間板ヘルニアなど。老年者運動器疾患の看護。接触皮膚炎、アトピー皮膚炎、老人性乾皮症、老人性紫斑、など。		疾-目標 3-5) 運動機能の障害。A 移動を妨げる障害および生活をつくりだす機能の障害。	
9	視覚器と耳鼻咽喉の疾患	白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、など。難聴。メニエール病、睡眠時無呼吸症候群、など。老年者耳鼻咽喉疾患の看護。		目標 2-4-A 視覚の障害。 B 聴覚の障害。	
10	老年期の薬の副作用と手術適応	非ステロイド性消炎鎮痛薬、向精神薬、抗筋薬など。腹部手術、肺手術、循環器疾患など。薬の副作用に対する看護上の注意。老年者手術の看護。		目標 2-5 治療を受ける高齢者の看護。A 薬物療法。B 手術。	
11	発熱と感染症	熱型、MRSA、病原大腸菌腸炎、偽膜性大腸炎、エイズ、など。		疾-目標 2-D 健康機能維持を脅かす感染の防止。	
12	呼吸困難と意識障害	老年者の発熱患者、感染症患者の看護。呼吸困難度の目安、呼吸困難の発生機序など。意識障害者の救急処置。意識障害の原因。老年者の意識障害の看護。		目標 2-4-G 認知障害・痴呆。	
13	痛み	頭痛、三叉神経痛、脊椎の障害、肩関節周囲炎、変形性関節症、など。老年者の痛みの看護。		目標 2-3-B 慢性的な自覚症状に対する観察・評価と自己コントロール。	
14	その他	かゆみ。不眠。しびれ。冷え。			
15	その他	必要に応じて、以上を補う講義をする。 必要に応じて、以上を補う講義をする。			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		老 年 看 護 学 特 講	担 当 教 員	吉 田 年 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1 ~ 5	事例によるデータ解釈	1 事例の解説、データ解釈のために学習しておくことを説明する 2 事例データのアセスメントを、次回までに事故学習により自己学習により終了して授業に参加する 1. データの解釈を質問する 2. データのアセスメントを質問する 3. アセスメントの方法を説明する		
6 7	まとめ	事例全体のまとめを行う 不足しているデータは何か質問しながら明らかにする 課題：事例の看護を必要とする問題をすべて列記する その問題には優先順位を付ける		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名		小 児 看 護 学 の 基 礎	担 当 教 員	中 垣 紀 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 2	小児の健康および 小児看護の理念	小児看護の変遷と小児看護の役割 小児看護と関連法 小児看護と倫理 小児医療と子どもの人権、インフォームド・ コンセント、QOL		1 子どもと家族の看護の概念 A 子どもの権利 a 生命倫理、b 児 童憲章 c 児童の権利に関する条 約 B 小児医療、小児看護の変遷 a 子どもと家族を取り巻く社会 の変化 b 小児医療の変遷 c 小児 看護の変遷 5 幼児の健康増進の ための看護 A 幼児の特徴と看護 d 予防接種 3 新生児の健康増進 のための看護 A 新生児の特徴と 看護 b 感染の予防	
3 4 5 6 7 8	小児看護の対象と 家族	小児期の親子関係と家族の機能 小児の特徴と成長・発達、発達課題 小児期の人格の構造と社会化のプロセス 子どもの生活と基本的生活習慣		3 新生児の健康増進のための看 護 B 新生児のいる家族への看護 a 母子関係の確立への看護 2 子 どもの成長と発達 A 成長・発達 の原則 a 一般的原則 b 成長・発 達に影響する因子 B 形態・機能 的発達 a 形態的成長発達 b 機 能的発達 C 心理・社会的発達 a 認知 b 情緒 c 社会性 d コミュニ ケーション e 運動と遊び f 発達 課題 5 幼児の健康増進のための 看護 A 幼児の特徴と看護 b 基本 的生活習慣の確立 3 新生児の健 康増進のための看護 A 新生児の 特徴と看護 c 栄養 4 乳児の健康 増進のための看護 A 乳児の特徴 と看護 b 離乳食	
9 10 11 12	小児をとり巻く環 境と健康問題	環境の変化と現代の小児の健康状況 小児の健康に関わる現代の家族状況 小児の健康問題と社会状況 小児の健康と社会支援システム		5 幼児の健康増進のための看護 A 幼児の特徴と看護 a 安全な環 境の提供 B 幼児のいる家族への 看護 C 事故防止の教育 6 学童の 健康増進のための看護 A 学童の 特徴と看護 b 食生活 c 学校への 適応 e 生活習慣病の予防 g 安全 教育 4 乳児の健康増進のための 看護 B 乳児のいる家族への看護 b 家族を取り巻く環境、5 幼児の 健康増進のための看護	



授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護	担 当 教 員	中 垣 紀 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	2 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3	体温調節系の健康問題と看護	体温調節系の構造・機能、体温調節系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、体温調節系に関するケア技術の実際	2 さまざまな状況にある子どもと家族への看護 H 急性期にある子どもと家族 a 発熱時の看護 b 脱水時の看護 B 検査や処置を受ける子どもと家族 k 輸液療法
4 5 6	消化器系の健康障害と看護	消化器系の構造・機能、消化器系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、消化器系に関するケア技術の実際	J 痛みのある子どもと家族 a 子どもの痛みの受けとめ方 b 痛みの表現方法 c 痛みの客観的評価 d 痛みの緩和 G 障害のある子どもと家族 C 経管栄養法
7 8 9	呼吸器系の健康障害と看護	呼吸器系の構造・機能、呼吸器系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、呼吸器系に関するケア技術の実際	H 急性期にある子どもと家族 c 呼吸困難時の看護 d 危機的状況の子どもと家族への看護 L 救急処置が必要な子どもと家族 g 吸引 h 酸素療法、
10 11 12	循環器系の健康障害と看護	循環器系の構造・機能、循環器系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、循環器系に関するケア技術の実際	I 慢性状態にある子どもと家族 d 学校の受け入れ e 長期的に治療を必要とする子どもと家族
13 14	腎・泌尿器系の健康障害と看護	腎・泌尿器系の構造・機能、腎・泌尿器系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化	a 小児慢性特定疾患 b 病気の時間的経緯と状態 c 病気による生活の変化
15	前期試験		
16	腎・泌尿器系の健康障害と看護	腎・泌尿器系に関するケア技術の実際	B 検査や処置を受ける子どもと家族 f 採尿 C 活動制限が必要な子どもと家族 a 活動制限の目的
17 18 19	内分泌系の健康障害と看護	内分泌系の構造・機能、内分泌系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、内分泌系に関するケア技術の実際	B 検査や処置を受ける子どもと家族 e 採血 j 注射 C 活動制限が必要な子どもと家族 b 身体的・心理的社会的影響
20 21 22	血液・免疫系の健康障害と看護	血液・免疫系の構造・機能、血液・免疫系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、血液・免疫系に関するケア技術の実際	B 検査や処置を受ける子どもと家族 g 骨髄穿刺 D 隔離が必要な子どもと家族 a 隔離の目的・方法
23 24 25	脳神経系の健康障害と看護	神経系の構造・機能、脳神経系の主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、脳神経系に関するケア技術の実際	B 検査や処置を受ける子どもと家族 h 腰椎穿刺
26 27	緊急時に求められる看護	小児が緊急を要することになりやすい構造・機能的特徴、主要症状のアセスメントと看護問題の明確化、緊急時に求められるケア技術の実際	L 救急処置が必要な子どもと家族 b 主な誤飲物質と処置 c 子どもの熱傷の特徴・重症度及び処置 d 溺水と処置 e 心肺蘇生法 f 乳幼児の意識レベル i 救急処置を受ける子どもと家族への看護



授 業 科 目 名		小児の健康障害と看護	担 当 教 員	中 垣 紀 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	小児の事故防止と安全	小児の健康問題に関わる事故および対策の考え方、わが国の小児の事故の状況、小児の事故防止対策		5 幼児の健康増進のための看護 A 幼児の特徴と看護 c 事故防止教育	
2	外来および入院時における看護	外来における看護、入院に伴う小児と家族の反応と看護、入院している小児の遊びと学習、入院に伴う基本的治療・処置・検査のケア技術、隔離が必要な小児と家族、活動制限が必要な小児と家族		2 ささまざまな状況にある子どもと家族への看護 A 外来における子どもと家族 a 緊張度の把握 b 感染症と他の疾患との区別と対処 c 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 d 子どもと家族の健康増進のための看護	
3				1 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A 病気や入院が子どもと家族に与える影響 a 各発達段階の病気の理解 b 病気や入院に対する対処能力 c 影響に関与する因子 d 病棟の環境と規則 e 子どもへの影響 f 家族への影響 B ストレスを緩和するための看護 a 入院各期の看護 b 発達段階別看護 c 入院の種類と看護 2 ささまざまな状況にある子どもと家族への看護 B 検査や処置を受ける子どもと家族 a 年齢に応じた説明と同意 b 検査・処置前・中・後の観察と看護 D 隔離が必要な子どもと家族 a 隔離の目的・方法、C 活動制限が必要な子どもと家族 a 活動制限の目的	
4				K 終末期にある子どもと家族 a 子どもの死の概念 b 死の不安と別離の不安 c 子どもへの病名の告知 f 子どもと家族に関わる看護者への看護	
5				e 子どもの死を看取る家族への指導	
6		予後不良な小児の特徴	予後不良な小児の特徴、看護の方向性、小児の死に対する理解と反応、		
7	予後不良な小児と家族のケア理念とアプローチ	家族のケア理念と家族理解へのアプローチ、小児と家族のケアの特徴			

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
8	予後不良な小児のケア	身体的緩和ケア、生活行動上の変化とケア	d 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア
9	先天性の問題を持つ小児と家族	奇形をもつ小児とその家族、家族の情緒的反応と行動、小児とその家族への援助	E 先天性の問題を持つ子どもと家族 a 先天異常の種類と特徴 b 家族の健康障害への理解と子どもの受容に対する看護 c 子どもと家族の日常生活への看護
10			G 障害のある子どもと家族 a 障害の種類と定義 b 障害の受容 d 子どもと家族の日常生活への支援と社会
11	障害のある小児と家族	発達障害児ケアの原則、家族の障害受容とその援助	6 学童の健康増進のための看護 A 学童の特徴と看護 a セルフケアの発達 6 思春期の子ども健康増進のための看護 A 思春期の子どもの特徴と看護 a セルフケアと教育
12	小児と家族のヘルスプロモーション	児看護におけるヘルスプロモーション、健康教育・患児教育	2 子どもの成長と発達 D 発育・発達 d 家庭環境のアセスメント
13	小児の在宅ケアに求められる看護	小児の在宅ケアにおける患児・家族の支援、在宅で家族が行うケアを支える看護	2 ささまざまな状況にある子どもと家族への看護 G 障害のある子どもと家族 c 経管栄養法 d 子どもと家族の日常生活への支援と社会 I 慢性状態にある子どもと家族 e 長期的に治療を必要とする子どもと家族、
14			
15	後期試験		
テキスト			
参考書			



授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 特 講	担 当 教 員	中 垣 紀 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4 5 6 7	<p>予後不良な子ども と家族のケース スタディ</p> <p>がんの子どもへの 病気説明</p> <p>死にゆく子どもの 家族へのケア</p> <p>予後不良な子ども と家族を支援する リソース</p> <p>子どもの在宅ター ミナルケア</p> <p>家族のグリーフワ ーク</p>	<p>小児がんの治療と子どもの特徴、事例紹介、ケースを振り返って</p> <p>truth telling と看護</p> <p>子どもの死に直面した親のニーズとケア 死にゆく子どものきょうだいのニーズとケア</p> <p>予後不良な子どもと家族のサポートリソース 子どもと家族のソーシャルサポートと看護者の役割</p> <p>子どものターミナルケアに関わる看護者への支援 子どもの在宅ターミナルケアの特徴とシステムづくり</p> <p>子どもの在宅ターミナルケアに必要な看護技術と 家族への支援</p> <p>家族の子どもとの死別体験 家族のグリーフワーク(悲嘆作業)</p>	<p>子どもの死の概念 死の不安と別離の不安 子どもへの病名の告知 終末期にある子どもの 心身の状態と緩和ケア 子どもの死を看取る家 族への看護 子どもと家族に関わる 看護者への看護</p>
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		母性看護学の基礎	担 当 教 員	高 木 タ カ 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	母性看護学を学ぶにあたって 母性看護学の概念	母性とは 母性看護とは		目標 2-1 母性看護の概念 A. 母性看護の主な概念 a: 人間の性と生殖 b: 母性の発達 c: 家族の機能	
2	母性の特徴	母性の心理 母性行動と母子関係 家族とは 母性看護の変遷と諸外国の現状			
3	母性看護の沿革と現状	母性看護の現状と動向 母性看護に関する組織と法律		C. 母性と子どもを支える体制 a: 母性と勤労 b: 地域における子育て支援	
4		母性看護の場と種類			
5		性と生殖の概念			
6	人間の性と生殖	人間の性の特徴 セクシャリティの分化と発達		B. 母性看護に関する生命倫理 a: 出生前診断 b: 不妊治療 c: 人工妊娠中絶 d: ハイリスク胎児・新生児の治療	
7		母子保健と遺伝			
8		性機能の生理		目標 2-2 性と生殖に関する機構	
9		卵巣の周期性変化 子宮の周期性変化 月経・性ホルモン・ほか		B. ヒトの発生と遺伝的要因 a: 発生のメカニズム B: 染色体・遺伝子 A. 性周期と生殖機能のメカニズム a: 性周期 b: 性周期とホルモン動態 c: 性反応 d: 受胎のメカニズム	
10	女性のライフステージにおける母性看護	思春期 思春期の特徴 初経準備教育 母性の発達を促す看護		目標 2-3 女性のライフサイクルにおける看護 A. 思春期のある人々への看護 a: 第二性徴 b: 心身のアンバランス c: 性教育 B. 成熟期にある人への看護 a: 家族計画 b: 生殖機能(受胎・不妊) c: 性病予防	
11		成熟期 結婚に関する指導 家族計画指導		目標 2-1 母性看護の概念 B. 母性看護に関する生命倫理 e: 性と生殖に関する権利	
12		更年期・老年期 更年期・老年期の身体的・精神的特徴 閉経 自律神経失調症 更年期障害とその予防・保健指導		目標 2-3 女性のライフサイクルにおける看護 C. 更年期にある人への看護 a: ホルモンの変化・閉経 b: 骨粗鬆症の予防	
13		母性の事例を通して看護過程を学ぶ			
14		看護過程・保健指導とは			
15		まとめ			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護	担 当 教 員	石 沢 敦 子
対 象 学 生 ( 収 容 数 )	2 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	正常妊娠	妊娠の定義、妊娠の成立、妊娠の持続期間、胎児の発育及び胎盤の機能について学ぶ。	目標 2-4 妊娠・分娩・産褥期における人々への看護 A. 妊娠期における人々への看護 a. 妊娠の正常経過
2	妊娠の生理		
3	胎児の発育と生理		
4	妊婦の看護アセスメント	母体の妊娠による生理的变化、胎児の健康と発育状態の診断について学ぶ。	2-4 D. 胎児・新生児の看護 a 胎児の成長・発達 b 妊娠中・分娩中の胎児の健康状態
5	妊婦の看護と保健指導	妊婦の心理・社会的特性について学ぶ。	
6	ハイリスク妊娠	妊婦の健康診査について学ぶ。	
7	正常分娩	妊娠期の保健指導について学ぶ。	2-4Aa. 妊娠の正常経過 b. 妊婦の心理 c. 妊娠と不快症状 d. 妊婦の日常生活とセルフケア e. 分娩の準備 f. 親役割の準備 g. 妊婦と発達危機
8	産婦の看護	ハイリスク妊娠の看護援助について学ぶ。	
10	産婦の看護アセスメント	分娩の3要素、分娩の機序、分娩経過について学ぶ。	2-4B. 分娩期における人々の看護 a 分娩の3要素と正常経過 b 産通のメカニズムと緩和の方法 c 産婦の心理 d 家族の心理 e 産婦と発達危機
11	ハイリスク及び異常分娩の看護	産婦の心理・社会・身体的変化の理解について学ぶ。	
12	産科病棟の管理	分娩経過に伴う健康段階の査定とその援助について学ぶ。	
13	正常産褥	ハイリスク、異常分娩の看護について学ぶ。	
14	産褥期の看護アセスメント	産科手術を受ける産婦の看護を学ぶ。	
15	試験	感染症産婦の看護について学ぶ。	
16	産褥・新生児の看護	合併症を持つ産婦の看護について学ぶ。	
17	新生児の看護	産科病棟の特性について学ぶ。	
18	出生直後の異常新生児	正常産褥期の身体的・心理・社会的特徴について学ぶ。	2-4C 産褥期における人々の看護 a 産褥期の正常経過 b 産褥の心理 c 産褥の日常生活とセルフケア d 母子関係 e 父子関係 f 産婦及び家族の発達危機 2-4D 胎児・新生児期の看護 c 正常新生児の生理 d 新生児の成長発達
19	妊婦・産婦・産褥の援助技術演習	母子相互作用について学ぶ。	
20		産褥期における健康段階の査定について学ぶ。	
21		退院後の生活自立への援助について学ぶ。	
22		産褥・新生児の健康段階に応じた看護援助を学ぶ。	
23		出生直後の新生児の生理的变化とその援助法を学ぶ	
24		新生児の生理・身体的特徴について学ぶ。	
25		新生児仮死の看護について学ぶ。	
26		妊婦体操について学ぶ。	
27		分娩スタイルについて学ぶ	
28		産褥体操について学ぶ。	
		乳房のケアについて学ぶ。	
		集団指導・個別指導について学ぶ	
		妊婦健診に必要な援助技術について学ぶ。	
		新生児計測方法	
		新生児の清潔援助方法(沐浴・清拭)	
		授乳指導	
		その他育児技術について学ぶ。	
		母性看護における情報収集と分析	
		看護問題の抽出・計画・実施・評価	
		事例を使つての演習について学ぶ。	
		試験	2-4D 胎児新生児の看護 e 育児技術
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		母性の健康障害と看護	担 当 教 員	石 沢 敦 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	ハイリスク妊娠	ハイリスク妊娠の定義・ハイリスク因子について学ぶ		目標 2.5 ハイリスクな状況にある人々の看護 A 救命救急の迫られる状況にある人々への看護 a 流産・早産 b 常位胎盤早期剥離 c 前置胎盤。	
2	異常妊娠	妊娠中の母低の全身疾患(妊娠中毒症・妊娠悪阻・妊娠貧血)について学ぶ。		B 集中的監視とケアの必要な状況にある人々への看護 a 妊娠中毒症 b 胎児仮死	
3		妊娠中の偶発性疾患(性器の奇形・子宮筋腫・卵巣腫瘍・子宮の奇異常)について学ぶ。			
4		胎児及び胎児付属物の異常(胎児の異常・卵膜の異常・胎盤の異常・臍帯の異常)について学ぶ。			
4		子宮外妊娠について学ぶ。			
		妊娠期間の異常(流産・早産)について学ぶ。			
		妊娠中の感染症・放射線の影響・公害による疾患について学ぶ			
		胎児の発育異常について学ぶ。			
		胎児の先天性疾患について学ぶ			
5	不妊症	不妊症と高度生殖医療による治療について学ぶ。		不妊治療	
6	異常分娩	異常分娩の原因とその対処方法を学ぶ。		2-5B 集中的監視とケアの必要な状況にある人々への看護 c 帝王切開分娩	
7		(母胎の異常・胎児の異常・付属物の異常・分娩による損傷・異常出血・ショック)について学ぶ。		2-5C 予期しない状況危機にある人々への看護 a 母子分離,死産 b 先天異常,障害を持つ新生児	
8		産褥期に多い疾患・感染症・精神疾患(産褥熱・泌尿器感染・乳房の異常・マタニティブルー)について学ぶ。産科手術後の褥婦の看護			
9	異常産褥	分娩後合併症の褥婦の看護について学ぶ。			
9		新生児仮死・分娩外傷について学ぶ。			
10	異常新生児	性分化異常・染色体異常の疾患・性感染症・生殖器に発症する悪性腫瘍・良性腫瘍・子宮内膜症・ホルモンの異常による疾患・月経異常について学ぶ。		疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う 6 遺伝子の連続性の異常 A 生命の連続性を作り出す機能の障害 b 生殖器の異常 c 加齢による身体の変化とホルモン療法 d 加齢と悪性腫瘍の発生	
11	女性生殖器疾患				
12					
13					
14	試験				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		母 性 看 護 学 特 講	担 当 教 員	高 木 タ カ 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	オリエンテーション	講義・演習の進め方、グループ編成・テーマ決定等			
2	グループワーク	このクラスは、徹底的にグループワーク学習を行います。			
3		チームメンバー、チームリーダーの役割を果たせる学生の参加を望んでいます。			
4		テーマ			
5		たばこと健康			
6		アルコールと健康			
7		薬物乱用と健康			
8		食事と運動と健康			
9		結婚			
10		離婚			
11		妊娠と妊娠中絶			
12		避妊			
13		性行為感染症			
14		不妊			
15	まとめ	まとめ			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		精神看護学の基礎	担 当 教 員	田 村 文 子	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 学 年	学 期	後 期 ( 集 中 講 義 )	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 2	精神保健看護の歴史 的変遷	精神障害者の処遇と精神保健看護について欧米、我が国の歴史の変遷を概観する。また、精神保健福祉活動の動向についても学習する		目標 1-2 精神保健医療の歴史と法制度 A.精神医療の変遷 a:欧米における精神医療の歴史 b:日本における精神医療の歴史 B.精神科看護の変遷 a:治療的環境の変化 b:看護師の役割の変遷	
3 4	心の健康	心(精神)の健康とは何かについて考える。心の健康に影響する要因をあげ、精神保健の意義について理解できる。心の健康を捉える概念として、(1)正常と異常、(2)精神と身体、(3)発達論の視点から考える		目標 1-1 精神看護学の概念 A.精神の構造と働き a:精神の健康 b:イド・自我・超自我 c:意識・前意識・無意識 d:知覚・認知(思考)・学習(記憶) e:感情 f:人格(パーソナリティ) B.精神看護における倫理 a:人権擁護 b:インフォームド・コンセント c:拘束と制限 C.パーソナリティの発達 a:フロイトの発達論 b:エリクソンの成長発達論 c:自我の防衛機制	
5 6	心の発達と健康	人のライフサイクル(乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期)における発達課題について概説する。家庭・学校・職場・地域などの環境と人間関係が心の健康・不健康(虐待、家庭内暴力、不登校、校内暴力、テクノストレス、燃え尽き症候群等)に及ぼす影響について学習する		目標 2-1 危機状況における看護 A.ライフサイクルにおける危機と看護 a:幼児期における危機と d:壮年期における危機と看護 e:老年期における危機と看護 B.ストレス状況における危機と看護 a:身体疾患を持つ患者の心の健康 b:患者家族の心の健康 c:死と死別 C.労働者の危機と看護 a:Burnout(もえつき)症候群 b:ワーカホリック	
7 8	ストレスと適応	ストレスは環境(外界)からの刺激により引き起こされる。セリエによるストレス、ストレッサー、適応について学習する。現代社会のさまざまな心の健康問題とストレスに適応していくためのウェルビーイング well-being(心身のよりよい状態)について考える		目標 3-1 精神症状・精神状態の把握と看護 A.生活の中での問題把握と看護 a:睡眠障害 b:不安状態 c:ひきこもり状態 d:拒否(拒食・拒薬)e:攻撃的行動 f:強迫行動 g:操作・試し行為 h:自傷・自殺企画 B.症状や状態によってもたらされる生活の変化の把握と看護 a:幻覚妄想 b:抑うつ状態 c:躁状態 d:衝動状態 e:昏迷状態 f:痴呆 g:せん妄・もうろう状態・アメンチア h:離脱症状(退薬症候群)C.検査による問題把握と看護 a:知能検査 b:記憶力検査 c:人格検査	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
9	ストレスコーピング	ストレスに対するさまざまなコーピング法(ストレス対処法)について概説する。また、学生自身が体験しストレスと対処法について発表しあう	目標 3-2 看護で活躍する技法 A. 観察 a:精神症状 b:表情・ふるまい・しぐさ B. コミュニケーション技術 a:傾聴 b:共感 c:受容 C. 看護師の自己理解 a:自己概念 b:自己受容 c:看護師の知覚・感情・思考 d:プロセスレコード・看護場面での構成 e:カンファレンス f:スーパービジョン D. 看護師が活用する技法 a:面接 b:生活技能訓練 c:心理教育 d:カウンセリング e:グループワーク f:自己活用 g:コンサルテーション
10	セルフケア理論	オレム、アンダーウッドによるセルフケア理論を用いて精神障害者のセルフケア活動について考える	目標 3-3 治療的アプローチ B. 内面への働きかけ a:精神療法 b:心理劇 c:作業療法 d:レクリエーション療法 e:芸術療法 f:遊戯療法 g:森田療法・内観療法 h:自律訓練法 i:催眠療法 C. 環境への働きかけ a:環境療法 b:治療共同体
11 12	保健看護の位置づけ、機能	カリキュラム改正と精神保健看護学の位置付けについて概説する。また、精神の健康問題をもつ人々の不安や苦痛の軽減、その成長や自立を高めるための精神保健看護の機能と役割、チーム医療について学習する	目標 1-1 精神看護学の概念 D. 患者 看護師関係 a:患者-看護師関係の特徴 b:患者-看護師関係の目的 c:患者-看護師関係を成立させる要因 d:患者-看護師関係の発展過程 2 精神保健医療の歴史と法制度 C. 精神保健医療に関わる法制度の変遷 a:精神保健福祉法の基本的な考え方 b:精神保健福祉法による入院の形態 c:精神保健指定医 目標 3-3 治療的アプローチ A. 身体への働きかけ a:薬物療法 b:電撃療法 目標 1-1 精神看護学の概念 E. 患者・家族とシステム a:危機の概念 b:危機介入 c:サポートシステム 目標 3-4 生活の場と看護 A. 対象のおかれている場や活動と看護 a:外来 b:デイケア c:入院 d:社会復帰施設・社会施設 e:共同作業所・共同住居 f:セルフヘルプグループ g:訪問看護 h:地域ケア(地域精神保健活動)
13 14	精神障害者福祉の動向	これまで精神障害者は多くのハンディキャップ(社会的不利益)を受けてきた。1995 年の「精神保健および精神障害者福祉に関する法律」(精神保健福祉法)で精神障害者の真のノーマライゼーションの実現がめざされるようになった。精神障害者と社会参加について概説する	B. 行動制限と看護 a:向精神薬による行動抑制と看護 b:隔離室(保護室)使用時の看護
15	まとめ	まとめ	
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名		精神の健康障害と看護	担 当 教 員	西 川 薫
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1 ~ 3	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について説明する。精神保健法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者 看護者関係、観察のポイント等について説明する。		a 欧米における精神医療の歴史 b 日本における精神医療の歴史 c 治療的環境の変化 d 看護師の役割の変遷 e 精神保健法の基本的な考え方 f 精神保健福祉法による入院の形態 g 精神保健指定医 h 傾聴・共感・受容
4 ~ 7	精神分裂病患者的看護	精神分裂病のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、混迷、自傷行為、攻撃、離院)にある患者に対する援助の方法について説明する。精神分裂病の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。		a 幻覚・妄想 b 拒否(拒薬・拒食) c 自傷・自殺企図 d 攻撃的行動
8 9	感情障害患者の看護	軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。		a 抑うつ状態 b 躁状態 c 昏迷状態 d 衝動行為
10 11	てんかん患者の看護	てんかんのさまざまな発作(大発作、重積発作、小発作等)に対する看護援助及び日常生活指導について説明する。		a 不安状態 b 引きこもり c コンサルテーション
12 13	神経症患者の看護	神経症(ヒステリー、摂食障害、不登校等)の看護援助について事例を通して概説する。		a 不安状態 b 引きこもり
14 15	ICU症候群、リエゾン精神科看護	ICU・CCU等における術後管理の過程でみられる特異な精神障害であるICU症候群について概説する。精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者 看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。		a コンサルテーション
16 17	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史の変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。		a デイケア b 社会復帰施設・社会施設 c セルフヘルプグループ d 共同作業所・共同住居 e 訪問看護 f 地域ケア
18 19 20 ~ 28	事例展開 発表とまとめ	事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開:グループワークと発表により看護診断について学習する。		
テキスト				
参考書				



授 業 科 目 名		精神の健康障害と看護	担 当 教 員	松 田 豊
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
1	総論 1	精神病の生物学的基盤と社会文化的背景。発症因子。精神病の予防，診断，治療，リハビリ。	F a : 精神障害の原因と分類 F b : 精神医学的症候と診断 F c : 精神医学的検査法 F f : 精神科リハビリテーション，社会復帰	
2	総論 2	精神医学と法律。入院の形態。入院患者の権利保障。司法精神医学。	F h : 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
3	統合失調症 1	統合失調症の精神病理，発症の背景。	F k : 精神分裂病，分裂病型障害および妄想性障害	
4	統合失調症 2	統合失調症の治療，精神薬理，リハビリ	F k : 同上	
5	躁鬱病 1	躁鬱病の精神病理，発症因子	F l : 気分(感情)障害(躁鬱病，鬱病)	
6	躁鬱病 2	躁鬱病の治療，精神薬理	F l : 同上	
7	神経症	強迫神経症，不安神経症，心気症	F m : 神経症性障害，ストレス関連障害および身体表現性障害	
8	人格障害	境界型人格障害，その他の人格障害	F o : 成人の人格および行動の障害	
9	摂食障害	拒食症，過食症。	F o : 同上	
10	薬物依存	アルコール依存症，薬物依存。	F j : 精神作用物質使用による精神および行動の障害	
11	児童精神医学	発達障害，学習障害，多動症，知的障害など	F r : 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害	
12	てんかん	てんかんの神経学，分類，診断，治療	F s : てんかん	
13	痴呆 1	症候性の痴呆，脳血管性痴呆	F i : 器質性精神障害	
14	痴呆 2	アルツハイマー病，その他の変性疾患による痴呆	F i : 同上	
15	まとめ			
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名		精 神 看 護 学 特 講	担 当 教 員		
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後	期
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選	択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	精神保健福祉活動	精神障害者観の変遷を法的側面(精神衛生法や精神保健福祉法など)からとりあげる		目標 1-2 精神保健医療の歴史と法制度 C.精神保健医療に関わる法制度の変遷	
2	リエゾン精神看護	精神科リエゾン看護の概略とその実践について文献抄読を中心に学習する		a:精神保健福祉法の基本的な考え方	
3				b:精神保健福祉法による入院の形態	
4				c:精神保健指定医	
4	看護とストレス	看護の場のストレスについて考える		目標 2-1 危機状況における看護 C.労働者の危機と看護 a:Burnout(もえつき)症候群 b:ワーカホリック	
5	PTSD	PTSD(Post Traumatic Stress Disorder:心的外傷後ストレス障害) に関する文献を抄読し、こころのケアについて学習する			
6					
7	社会的ひきこもり	最近の社会問題となっているひきこもりについて学習する			
		*本年度開講せず			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		看 護 研 究	担 当 教 員	内 藤 和 美	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2	学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	研究ということ(1)	研究ということ、研究の目的、研究の種類			
2	研究ということ(2)	論文の種類、文献(種類、検索、入手、整理)			
3	研究論文の構成と書き方(1)	標題、はじめに、対象と方法、結果、考察、おわりに			
4	研究論文の構成と書き方(2)	論文実例を使った確認			
5	実態調査(1)	調査研究の目的と特徴、調査研究のいろいろ、基礎としての実態調査、			
6	実態調査(2)	実態調査の進め方 論文実例を読む			
7	事例研究(1)	事例研究の目的と特徴、事例研究のいろいろ、事例研究の進め方			
8	事例研究(2)	論文実例を読む			
9	看護研究 について	看護研究 のオリエンテーションと相談			
10	群馬県看護学生看護	参加、レポート作成			
~	研究発表会参加				
12					
~	看護研究 発表会	参加、レポート作成			
15	参加				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		生 命 倫 理	担 当 教 員	村 上 隆 夫	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		3	学 年	学 期	前 期 ( 集 中 講 義 )
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選	択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容			国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命倫理学の成立	生命倫理学の成立と素の背景			
2	古代哲学における生命と身体	古代エジプト・ギリシャ・キリスト教における生命観と身体観			
3	近代哲学における生命と身体	デカルトの哲学における生命観と身体観			
4	伝統的社会における死と葬送	前近代社会における死の儀礼			
5	近代社会における死と葬送	近代社会における死の儀礼			
6	疎外される身体と加工される身体	人間の身体の人間学的考察			
7	身体と人格	人格概念の形成と身体と人格の関係			
8	身体は誰のものか	脳死と臓器移植をめぐる倫理的問題			
9	人権と医療	インフォームド・コンセントをめぐる倫理的問題			
10	人間はいつから人間になるのか	妊娠中絶と新生児殺しをめぐる倫理的問題 安楽死と尊厳死をめぐる倫理的問題			
11	人間が人間でなくなるとき	生殖技術をめぐる倫理的問題			
12	子どもは誰のものか	医療関係者と患者との人間関係をめぐる倫理的問題			
13	医療関係者と患者				
14	生命倫理と正義	医療資源の配分をめぐる倫理的問題			
15	動物の生存権	生命倫理学と環境倫理学との関係について			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		国 際 保 健 医 療 協 力	担 当 教 員	矢 嶋 和 江	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		3 学 年	学 期	前 期 ( 集 中 講 義 )	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 ~ 2	国際協力とは	国際協力の考え方の変遷 第二次世界戦争以降の取り組みと開発思想 先進国・開発途上国の区割り		基礎看護学目標 3. 1 - G : 国際協力	
3	看護の国際協力	国際援助機関とその役割 開発途上国の援助ニーズにどのように応えてきたか、 各機関の役割、NGOの役割などについて概説する。 日本の国際協力の流れ 日本が受けてきた援助 国際看護の考え方 看護職の国際協力の流れ		国際協力の意味を理解する  国際援助機関とその役割	
4 ~ 5	開発途上国の健康問題	第二次世界戦争前・戦争後の活動 健康問題の格差 生活と環境 貧困と健康 栄養と感染症 母子保健とジェンダー			
6	国際協力に求められるもの	リプロダクティブヘルスの視点から母子保健の現状を理解する。 伝統的医療・民族としての慣習 国際協力のイメージ 求められる能力は何か			
7 ~ 8	協力活動の実践例	青年海外協力隊保健師隊員の活動例(VTR) 途上国の保健問題について、問題の派生する要因、その対策、今後の課題などについて考える。			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		歯 と 健 康	担 当 教 員	小 林 圭 一	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		総論		目標 1《人体の構造と機能》	
2		口腔解剖 歯牙解剖		8 栄養摂取の機構-B 咀嚼- b.口	
3		歯の役割 口腔ケアの目的		腔の構造と機能 8-C 嚥下	
4		歯科医療とは			
5		齲蝕		目標 3《社会保障制度と生活者	
6		齲蝕予防法		の健康》	
7		歯周疾患		4 保健活動-E 生活習慣病予防	
8		顎関節疾患			
9		口腔軟組織の疾患		目標 1《基礎看護学》	
10		顔面、頸部の疾患		1 看護の基本となる概念 -D 人	
11		予備		間の生活	
12		看護における口腔ケア			
13		"		目標 1《成人看護学》	
14		"		2 成人期に特徴的な健康問題-A	
15		予備 (レポート作成)		生活習慣に関連する健康障害	
				目標 3《成人看護学》	
				2 栄養代謝の障害に応じた看護	
				-A 摂食障害時の看護	
				目標 2《老年看護学》	
				3 高齢者の健康を支える看護-A	
				高齢者の健康の維持-a.食生活	
				と栄養 4 障害を持つ高齢者の	
				看護-E 日常生活動作の障害-b.	
				食事動作	
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		ボランテ ィア 活 動	担 当 教 員	近 藤 照 彦	
対 象 学 生 ( 収 容 数 )		1 ・ 2 学 年	学 期	通 年	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	ボランティア活動とは	科目説明、履修方法、活動記録、活動範囲、単位認定などについて			
2	活動1	活動1			
2	活動2	活動2			
3	活動3	活動3			
4	活動4	活動4			
5	活動5	活動5			
6	活動6	活動6			
7	活動7	活動7			
8	活動8	活動8			
9	活動9	活動9			
10	活動10	活動10			
11	報告会	成果発表			
テキスト					
参考書					